

2009年3月期 決算説明会

2009年5月1日
ヤマハ株式会社

外部環境

- 世界的な景気減速の進行
- 急速かつ大幅な円高
- 原材料価格および電気、ガス等インフラ関連費用の高騰

決算の概要

- 2009/3期は対前期減収減益
当期利益は営業益減と事業構造改革に伴う特別損失の計上等で206億円の赤字決算。対前回公表値(3/19)では、減収増益
- 景況感の悪化、為替影響等で各セグメントとも、対前期減収減益
- 事業譲渡影響(143億円)、為替影響(349億円)を除いた実質売上高は前期比7.5%の減収
- 期末棚卸資産残高は、為替影響(61億円)を除けば、前期末に対し、実質105億円の増加

2009/3期 業績概要



▶ 対前期減収減益。対前回予想減収増益

(億円)

	08/3 実績	09/3 実績	前期比	前回予想 (09/3/19発表)	前回予想比
売上高	5,488	4,593	▲16.3%	4,650	▲1.2%
営業利益 (営業利益率)	328 (6.0%)	138 (3.0%)	▲57.8%	115 (2.5%)	+20.4%
経常利益 (経常利益率)	326 (5.9%)	120 (2.6%)	▲63.2%	95 (2.0%)	+26.1%
当期利益 (当期利益率)	396 (7.2%)	▲206 (-)	—	▲230	—

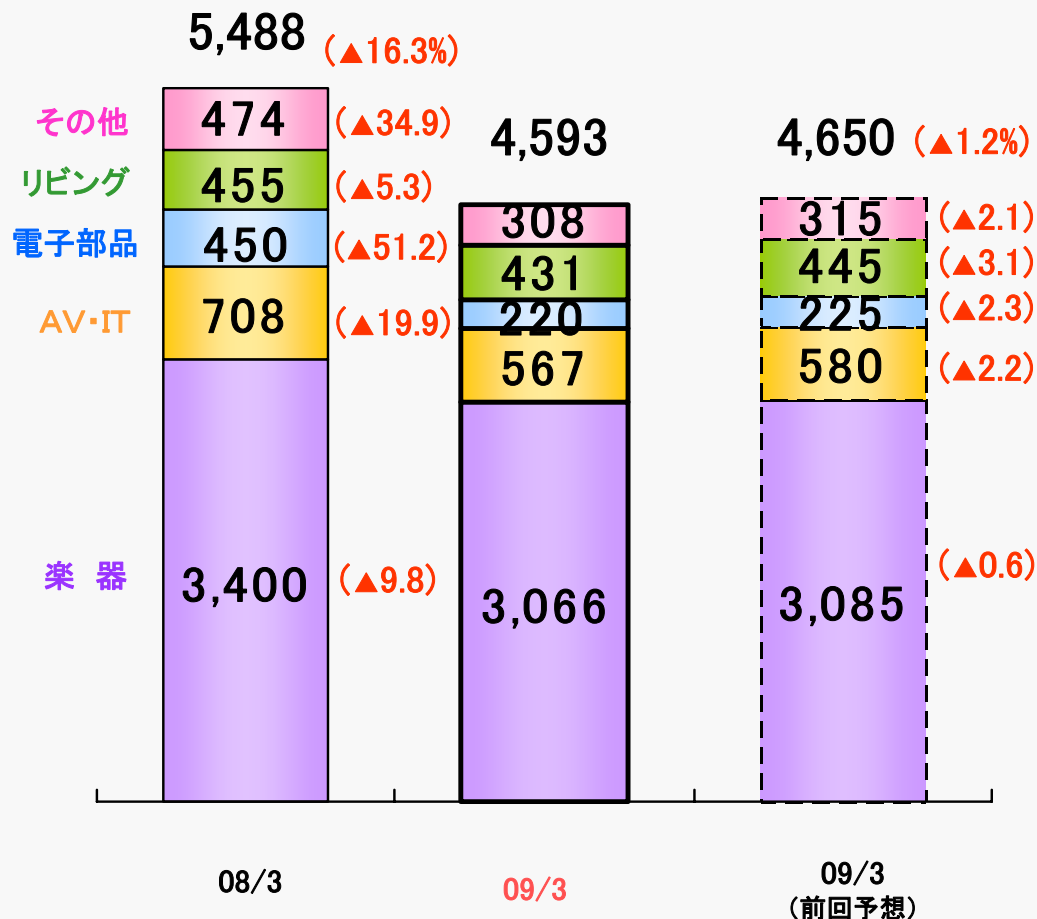
為替レート

(円)

売上高	US\$	114	101	101
	EUR	162	144	143
利益	US\$	116	102	103
	EUR	159	153	153

2009/3期 事業別業績

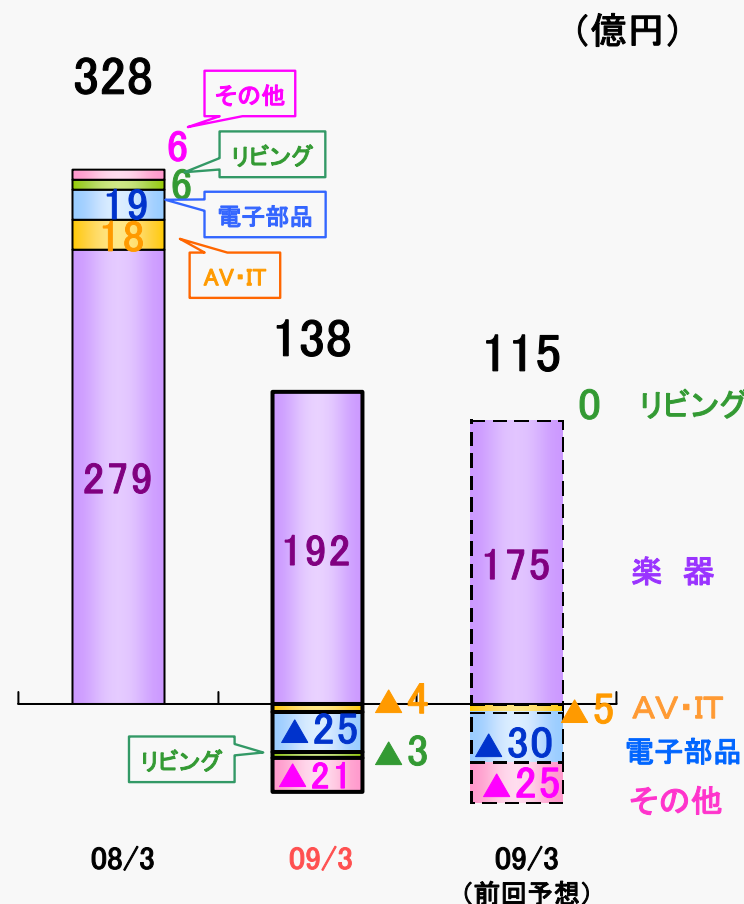
売上高



()内は前期比
または
前回予想比

前期との比較での為替影響は▲349億円
(楽器▲276億円、AV・IT▲71億円、半導体▲3億円)
また、前回予想との比較では▲2億円
(楽器▲1億円)

営業利益



前期との比較での為替影響は▲69億円
(楽器▲69億円、半導体+1億円)
また、前回予想との比較では▲5億円
(楽器▲4億円)

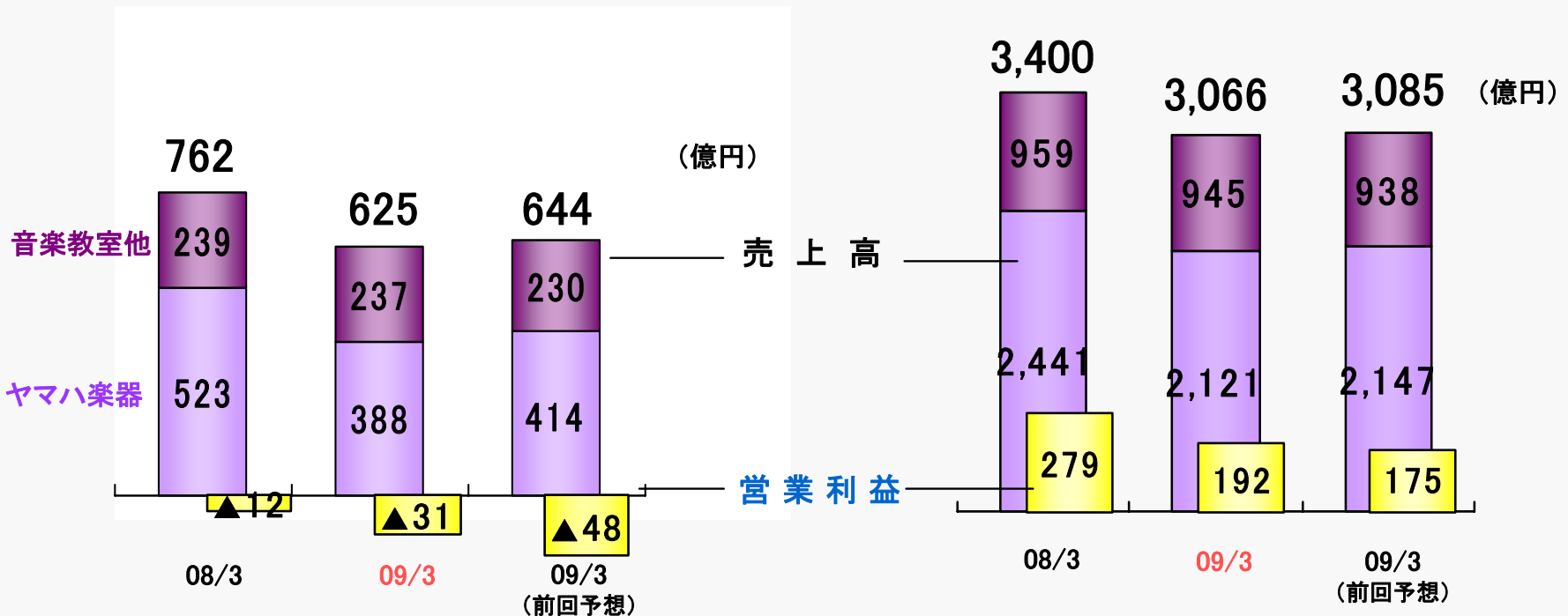
*08/3期の電子部品には、電子金属を含む

4Qの状況

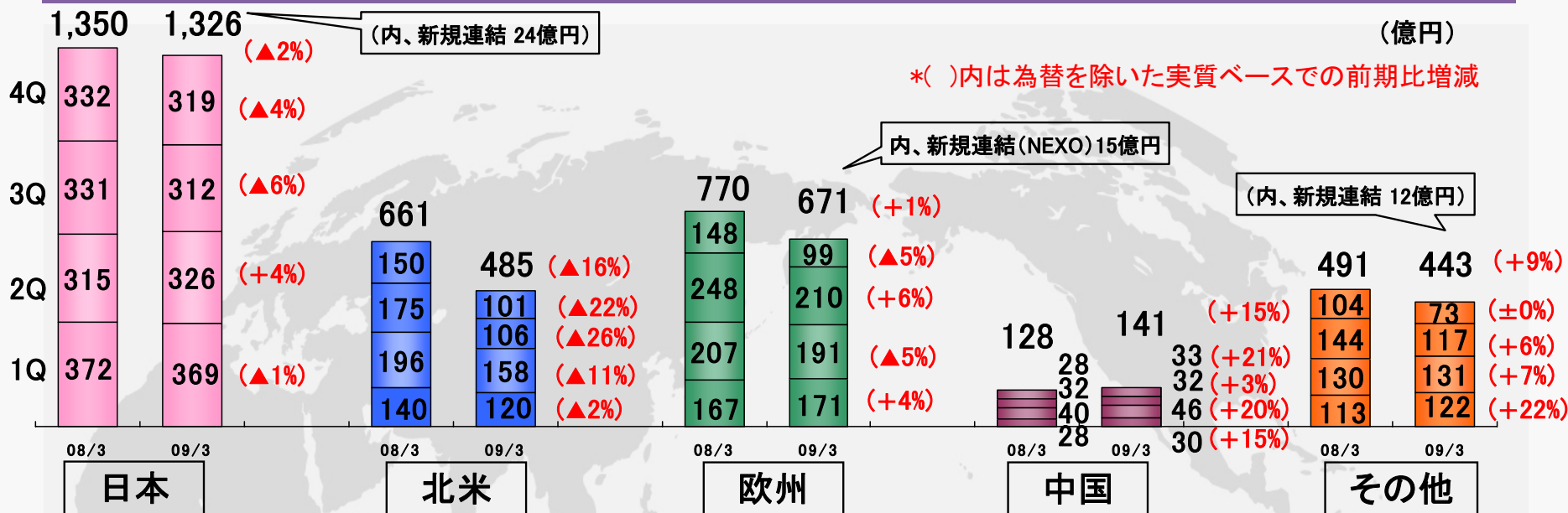
- ・年明け後、北米、日本に続き、欧州、新興市場でも減速感。中国は引き続き堅調
- ・為替影響を除いた実質売上高は、新規連結19億円を含め前年同期比6.2% (47億円) の減収。前回予想との比較では、実質2.8%の減収
- ・営業利益は、対前年同期減益となるものの、対前回予想では経費削減効果と値上げ効果で増益
- ・為替影響を除いた期末在庫は、前回予想に対し増加

通期の状況

- ・対前期減収減益
- ・為替影響を除いた実質売上高は、新規連結51億円を含め、前期比1.7% (58億円) の減収。北米は前期比16%の実質減収。欧州は実質ほぼ前期並み。日本は前期比2%の減収。中国等新興市場は成長継続
- ・商品別には、ピアノが米国、日本を中心に販売台数減少。PA機器、ギター、電子ドラムは対前期実質増収
- ・営業利益は減収に加え、為替損、材料価格の上昇等により、対前期大幅減益

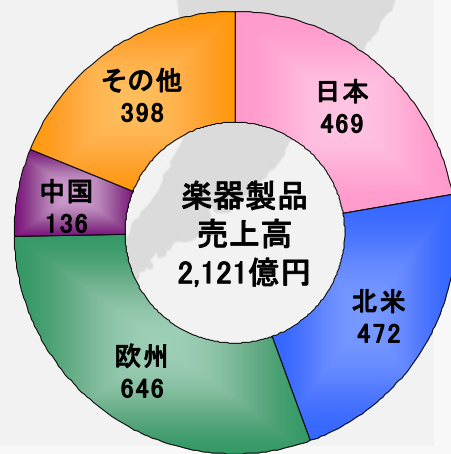


楽器事業(地域別の販売状況)



楽器地域別状況	
日本	大型鍵盤楽器の不調に加え、消費減退の影響により楽器全般に需要が減少、前期実績を下回る。
北米	住宅不況、金融恐慌を背景にピアノなど大型・高額商品の苦戦続き、10月以降は更に悪化。ポータブルキーボード・シンセサイザーも不振で、鍵盤楽器群が低調。ギターは概ね堅調を維持するも、管楽器もやや鈍化。
欧州	景気悪化影響あったものの、新商品効果もあり、欧州トータルではほぼ前年並み。ドイツは堅調に推移したものの、イギリス、スペイン、イタリアで落ち込んだほか、東欧では売上成長が期後半でスローダウンした。商品では管楽器が苦戦したが、ポータブルキーボードは新商品の寄与もあり伸長した。
中国	世界的な経済危機の影響を受け内需の成長鈍化あるも、楽器販売は2桁成長を継続。商品別にはポータブルキーボードが苦戦し、PA機器も需要減速で期待に届かなかったが、ピアノ、電子ピアノ、ギターが大きく伸びた。通期では前期を上回る。
その他の地域	世界経済の減速、為替動向の影響はあるものの、アジア、中南米の各地域で成長基調を維持。年明け以降の市況悪化による下振れはあるが、通期では前期を上回る。

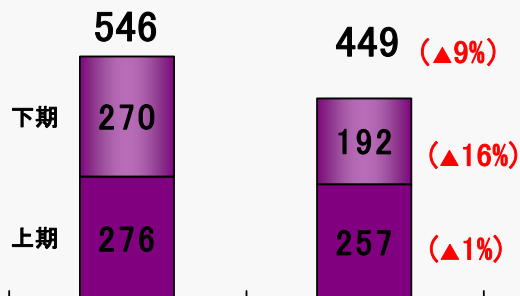
楽器製品売上高の地域別内訳



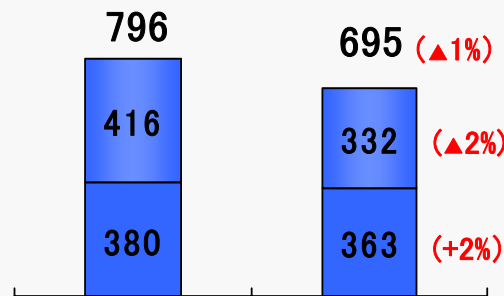
楽器製品売上高の商品群別販売状況



(億円) ピアノ



電子楽器

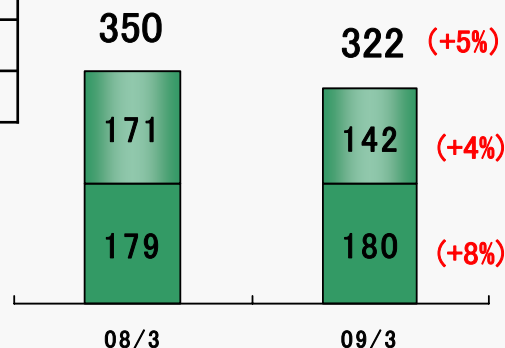


* ()内は為替を除いた
実質ベースでの前期比増減

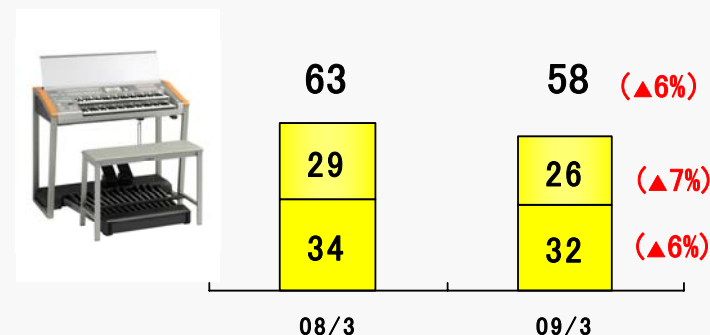
ピアノ売上台数	08/3	09/3
国内	19,200台	16,600台
海外	76,100台	77,600台
合計	95,300台	94,200台

PA機器

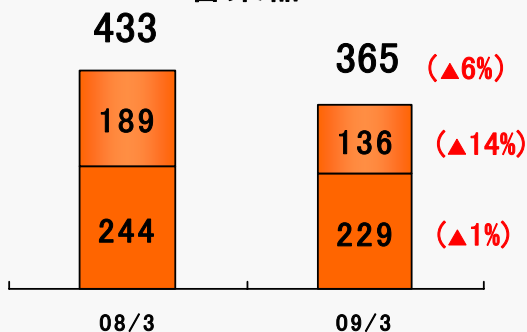
NEXO 15億円



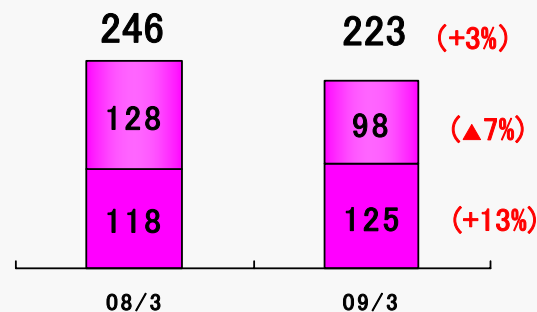
エレクトーン



管楽器



弦打楽器



楽器事業(商品群別の販売状況)



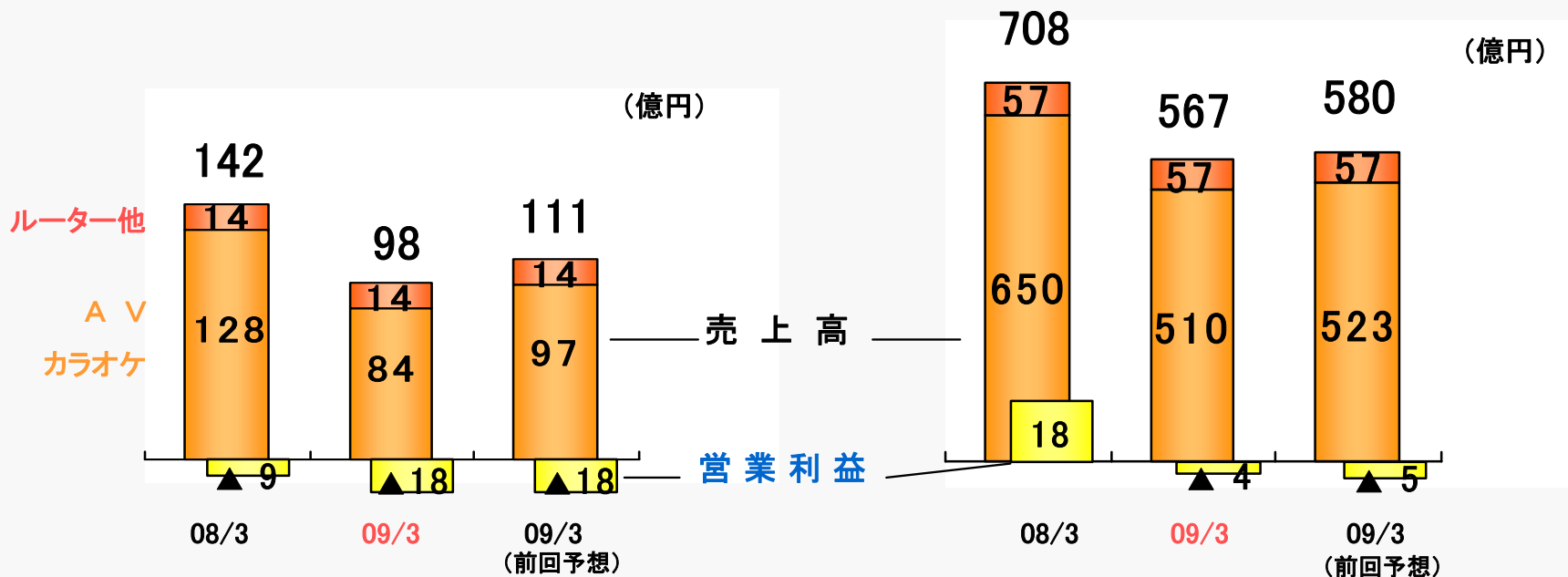
商品群別販売状況	
ピアノ	経済危機の影響による景気低迷を受け、全体的に日本製の販売が苦戦、一方で中国製が伸長し、高額品の低迷と単価ダウンが進んだ。日・米で大幅に需要が減退する中、欧州では堅調を維持、中国市場では成長を継続するも、全体では前年を下回った。
電子楽器	国内のエレクトーン、北米でのデジタルピアノ、ポータブルキーボードが低迷したことにより、全商品群で対前年を下回った。シンセサイザーも欧米でダウンしたが、欧州のポータブルキーボードは新商品貢献などで大きく伸張した。
管楽器	北米での販売は全ての価格帯で、特に08秋以降急速鈍化。欧州、中国、アジアも伸び悩む。日本は個人持ち需要が大きく縮小し、本数ベースでは、世界全体で前年を下回る。
弦打楽器	アコースティックギターは日本以外の地域で堅調に推移。特にエレクトリックアコースティックギターはアメリカを中心に大きく販売を伸ばし、市場でのプレゼンス上昇。電子ドラムも北米中心に伸長継続。アコースティックドラムは不振。
PA機器	景気減速の中、納入物件の減少や規模縮小が、主力デジタルミキサーの販売にも影響し販売減少となった。楽器店ルートでの販売では、後半失速したが、前年並み実績となった。PAカテゴリーとしては新規にNEXO社を連結対象に加えたことで、全体で増収となる。

4Qの状況

- ・対前年同期減収減益。対前回予想では減収微増益
- ・為替影響を除いた実質売上高は、前年同期比15.5% (22億円)の減収
- ・北米、欧州の実質売上高は対前年同期2桁の減収
- ・営業利益は、経費削減効果等により前回予想並み
- ・期末在庫は、為替影響を除いた実質ベースでは、前回予想並み、対前年同期では、減少

通期の状況

- ・対前期減収営業赤字
- ・為替影響を除いた実質売上高は前期比9.9%の減収。
- ・AV機器の実質売上高は北米が前期比14%の減収。欧州は16%の減収
- ・フロントサラウンド商品は、日本市場で好調
- ・通信カラオケ機器は減少継続。会議システムも期待を大きく下回る

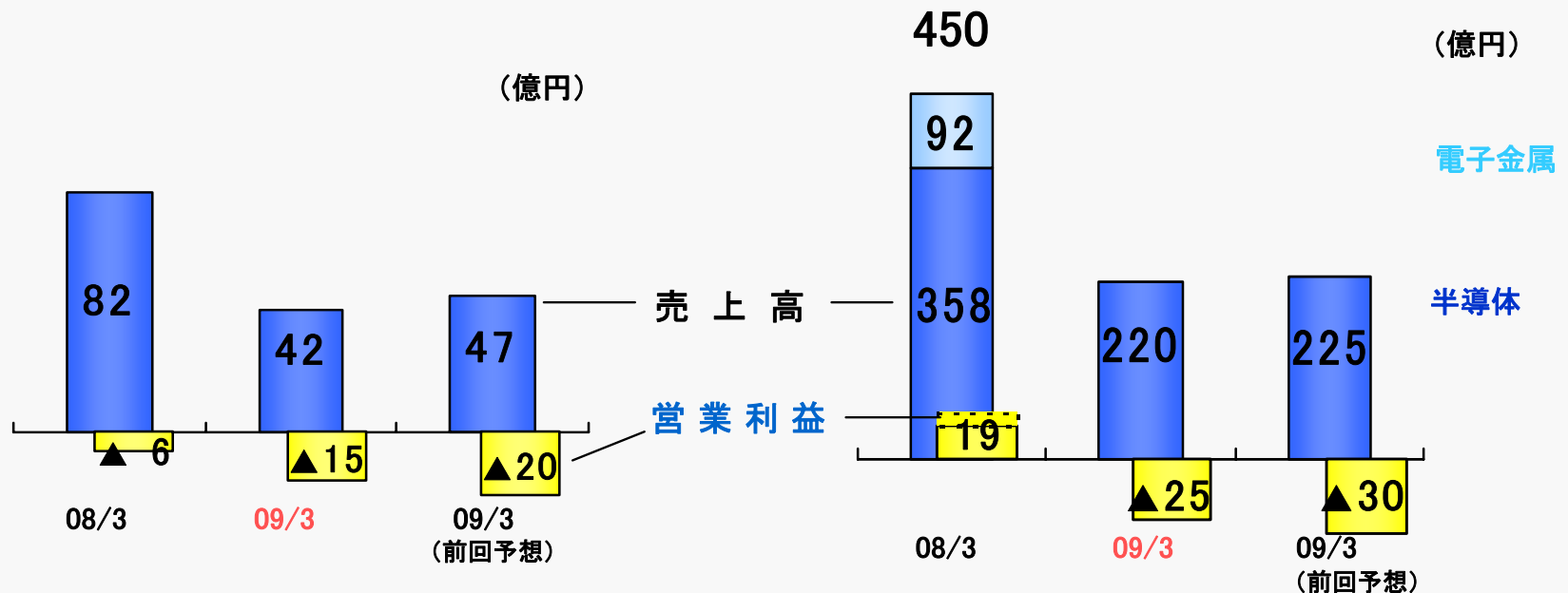


4Qの状況

- ・対前年同期減収減益。対前回予想では減収増益
- ・国内携帯電話販売の減少により、携帯電話用音源LSIの不振継続
- ・生産調整による在庫適正化を実施したが、期末在庫は対前期倍増

通期の状況

- ・対前期減収減益
主力の携帯電話用音源LSIは対前期大幅な減少。国内では携帯電話の需要減少、海外ではソフト化の進行による
- ・アミューズメントLSIも市場の低迷により対前期減収
- ・デジタルアンプは開発遅れで、ほぼ前期並みの売り上げに留まる
- ・シリコンマイクは競争激化により、事業化を断念

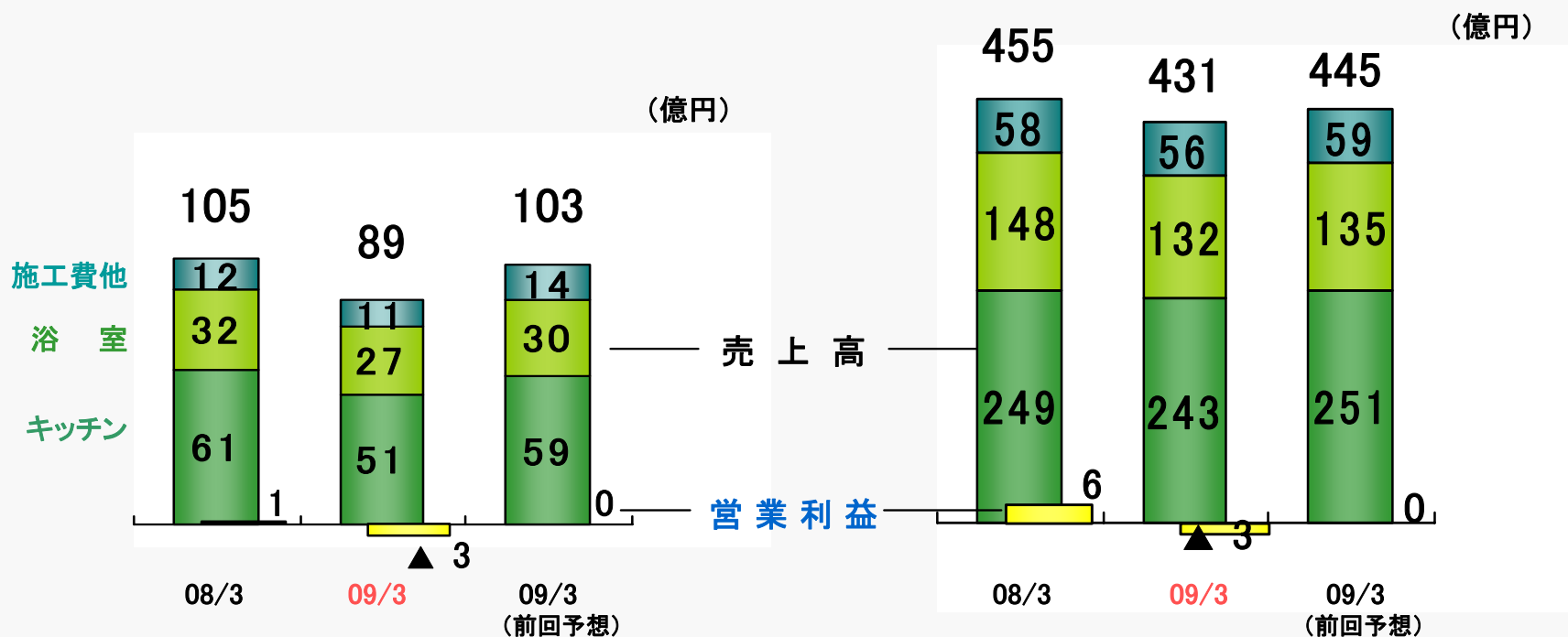


4Qの状況

- ・対前年同期、前回予想とも減収減益
- ・年明け後の新築住宅着工数は前年同期比約80%の水準
- ・市況の悪化に伴い、キッチン、浴室とも対前年同期、前回予想とも減収
- ・利益面では、貸倒損失3億円発生により、前回予想未達
- ・一層の選択と集中を推進する観点から、3月末を目処に灯油給湯器・ボイラーの販売終了

通期の状況

- ・対前期減収減益
- ・2008年度の新築住宅着工数は、ほぼ前期並み
- ・システムキッチン、浴室とも対前期減収
- ・リフォーム比率は、ほぼ前期並み
- ・営業利益は、減収と材料価格の高騰、減産に伴う売上総利益率の低下で、対前期減益



その他の事業

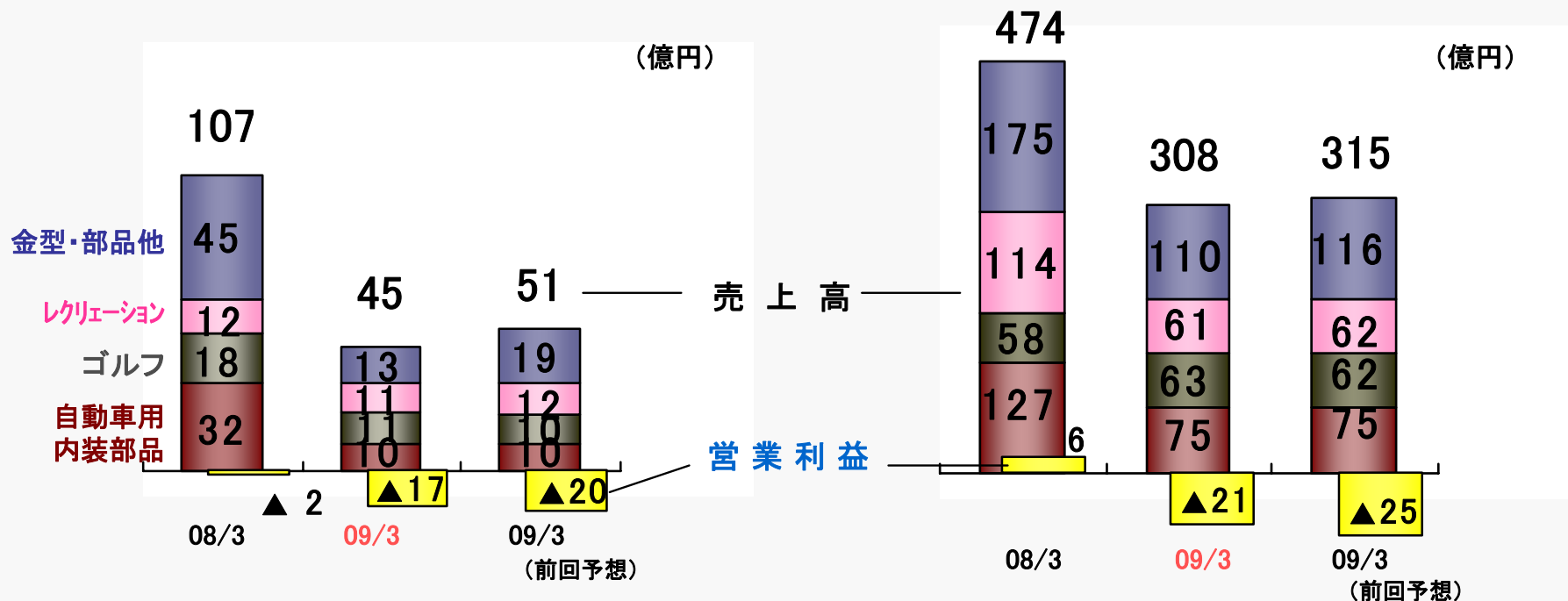


4Qの状況

- ・対前年同期減収減益。対前回予想では減収増益
- ・自動車用内装部品、マグネシウム部品とも受注低調
- ・ゴルフは、景況感を反映し、国内、韓国で急ブレーキ

通期の状況

- ・対前期減収減益
- ・自動車用内装部品、マグネシウム部品とも、完成品メーカーの減産により、対前期減収減益
- ・ゴルフは対前期増収増益となるものの、期後半でスロウダウン
- ・レクリエーションは、前期の4施設譲渡により、赤字幅縮小
- ・マグネシウム部品事業は1年以内を目処に事業撤退



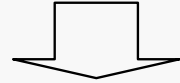
事業環境

- 経営環境は、引き続き不透明
 - ・世界経済の減速継続
 - ・法人向け部品ビジネスは、期前半で在庫調整が一巡し、底打ちの見込み
- 円高は継続
- 材料価格は低下傾向

業績見通し

- 対前期、減収減益を見込む
- 為替影響(297億円)を除いた売上高は、値上げによる増収効果も含め対前期2.0%の増収計画
- 業績改善施策の継続と新商品の効果的な市場導入
- 将来の成長に向けた準備

- 未曾有の経営環境下で、短期の業績改善、中長期での事業体質、財務体質の強化への取り組みが急務



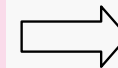
「経営改革委員会」による業績改善プログラムの実行

1. 短期の収益改善施策の実施

- ・人件費を含めた経費の削減、コストダウン
- ・投資見直し
- ・資材、原材料価格の引き下げ
- ・為替変動対応としての価格引き上げ

2. 中長期の業績改善のための方向付け

- ・事業ごとのレビュー、事業の方向性検討
- ・不採算事業への対応
- ・業務改革による小さな本社の実現



事業構造改革の推進

3. 成長への布石、準備

- ・将来の成長に向けた体制準備
- ・来春をめぐりに次期中期経営計画の方向性を明確化

事業構造改革の推進



➤ 事業構造改革の実行

主な具体化施策	内容	一時費用*	期待効果
マグネシウム部品事業からの撤退	・遅くとも、2010年3月末までに、生産終了	8億円	・中期では、約20億円程度の効果期待
半導体シリコンマイクビジネス参入断念	・携帯電話音源に代わるデバイスとして期待したが、収益性見込めず、事業化断念	4億円	・10/3期では約11億円の効果
固定資産、のれんの減損	・半導体及びレクリエーション固定資産の減損による損益分岐点引き下げ	186億円	・10/3期の効果は32億円 (楽器14、半導体17、レクリエーション1)
拠点再編	・台湾、英国ピアノ工場閉鎖	17億円	・10/3期は約1億円の効果 ・中期では、5億円程度の効果期待

* 一時費用は2009/3期で計上済み

➤ 更なる事業構造改革の推進

- ・一段の事業構造改革の推進
- ・不採算事業の見極め
- ・次なる成長戦略に向けてのリソース見直し、シフト

2010/3期 業績予想



	09/3 実績	10/3 予想	増減額	伸び率	(億円)
売上高	4,593	4,390	▲203	▲4.4%	
営業利益 (営業利益率)	138 (3.0%)	60 (1.4%)	▲78	▲56.7%	
経常利益 (経常利益率)	120 (2.6%)	30 (0.7%)	▲90	▲75.0%	
当期利益 (当期利益率)	▲206 (-)	0	+206	—	

為替レート

09/3実績

10/3予想

売上高

US\$	101	95
EUR	144	120

利益

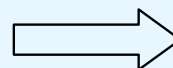
US\$	102	95
EUR	153	120

2010/3期経営数値の枠組み

売上高

2009/3期	2010/3期(予想)
4,593億円	4,390億円

・為替影響 297億円



実質増収 94億円
(うち、新規連結51億円)

営業利益

2009/3期	2010/3期(予想)
138億円	60億円

<マイナス影響>.....305億円

・為替影響	203
・退職給付債務利差損	35
・減産影響	67



<対 策>.....227億円

・経費削減	65
・材料コストダウン	30
・値上げの実施	88
・構造改革効果	44

当期利益

2009/3期	2010/3期(予想)
▲206億円	0億円

・営業減益	▲78
・営業外収支	▲12
・特別損益	+232
・法人税等	+64

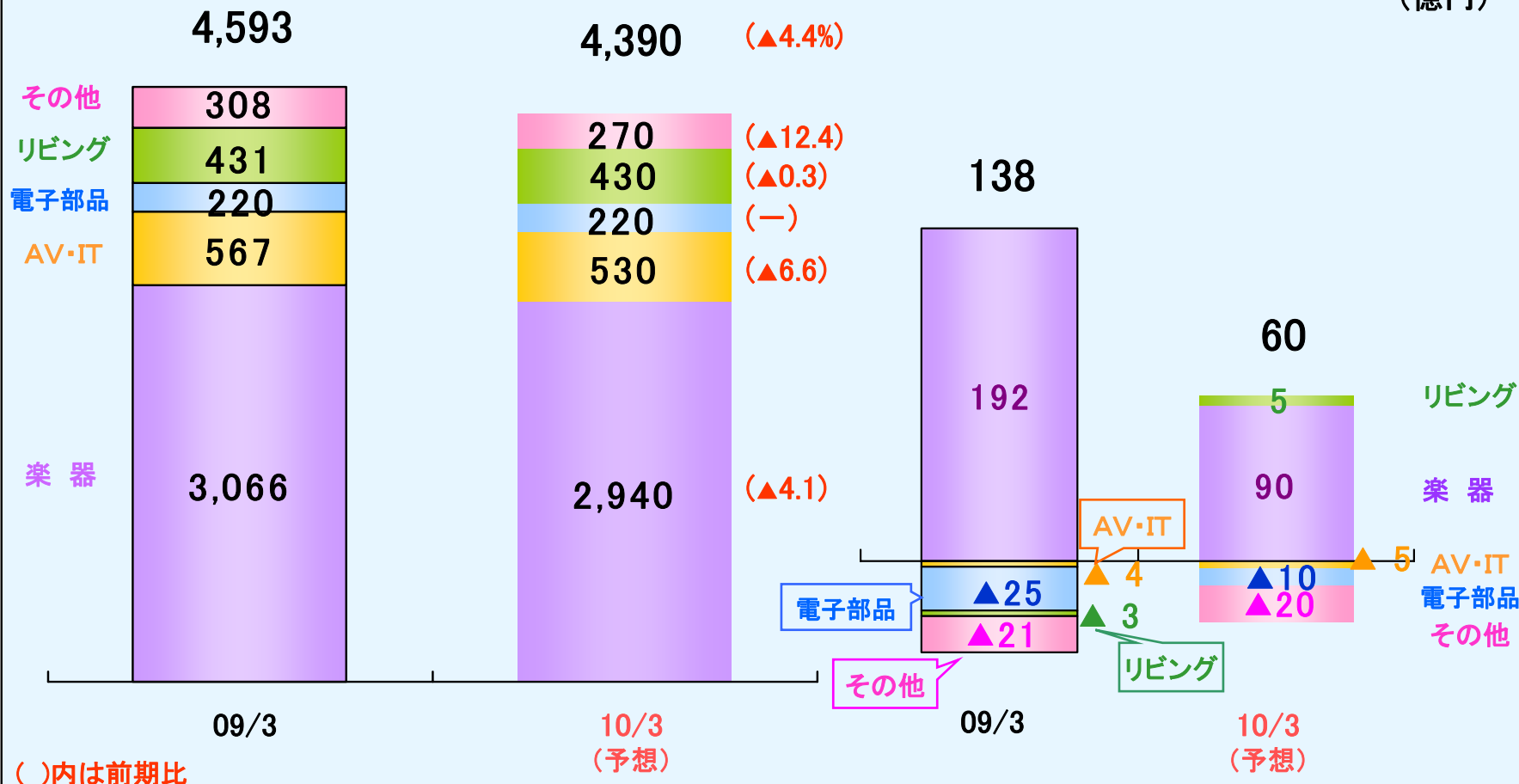
2010/3期 事業別業績予想



売上高

営業利益

(億円)



2009/3期との比較での為替影響は▲297億円
(楽器▲234億円、AV・IT▲61億円、半導体▲2億円)

2009/3期との比較での為替影響は▲203億円
(楽器▲163億円、AV・IT▲42億円、半導体+2億円)

■市場環境

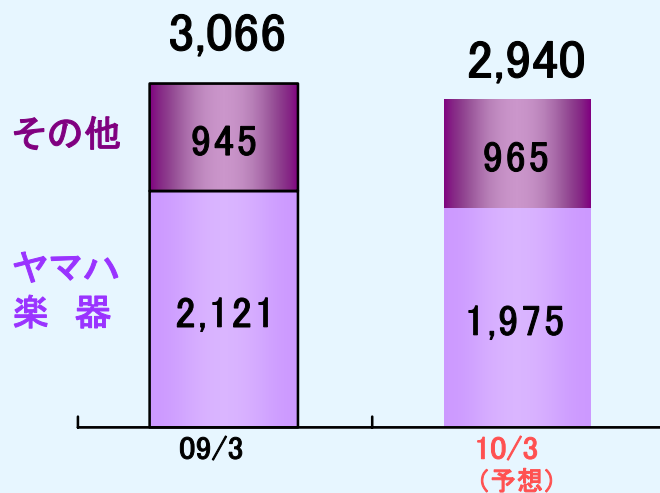
- ・世界的な景気回復の遅れ
- ・米国を中心に消費者向け信用の収縮継続
- ・流通再編の進行(大型チェーン店、量販店シェア拡大)

■重点施策

- ・在庫、投資、経費の最適な管理
- ・新製品のタイムリーな市場投入
- ・コスト競争力の強化
 - 中国、インドネシア増産
 - 台湾、英国ピアノ工場の生産終了
 - 掛川ピアノ工場への統合前倒し
 - 材料価格の引き下げ
- ・販売価格の引き上げ
- ・成長市場(中国、中南米、中東、東欧等)での拡販とロシア、インド販売会社の軌道乗せ

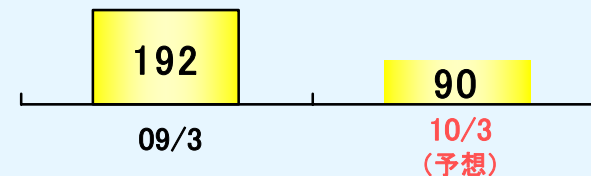
売上高

(億円)



営業利益

(億円)

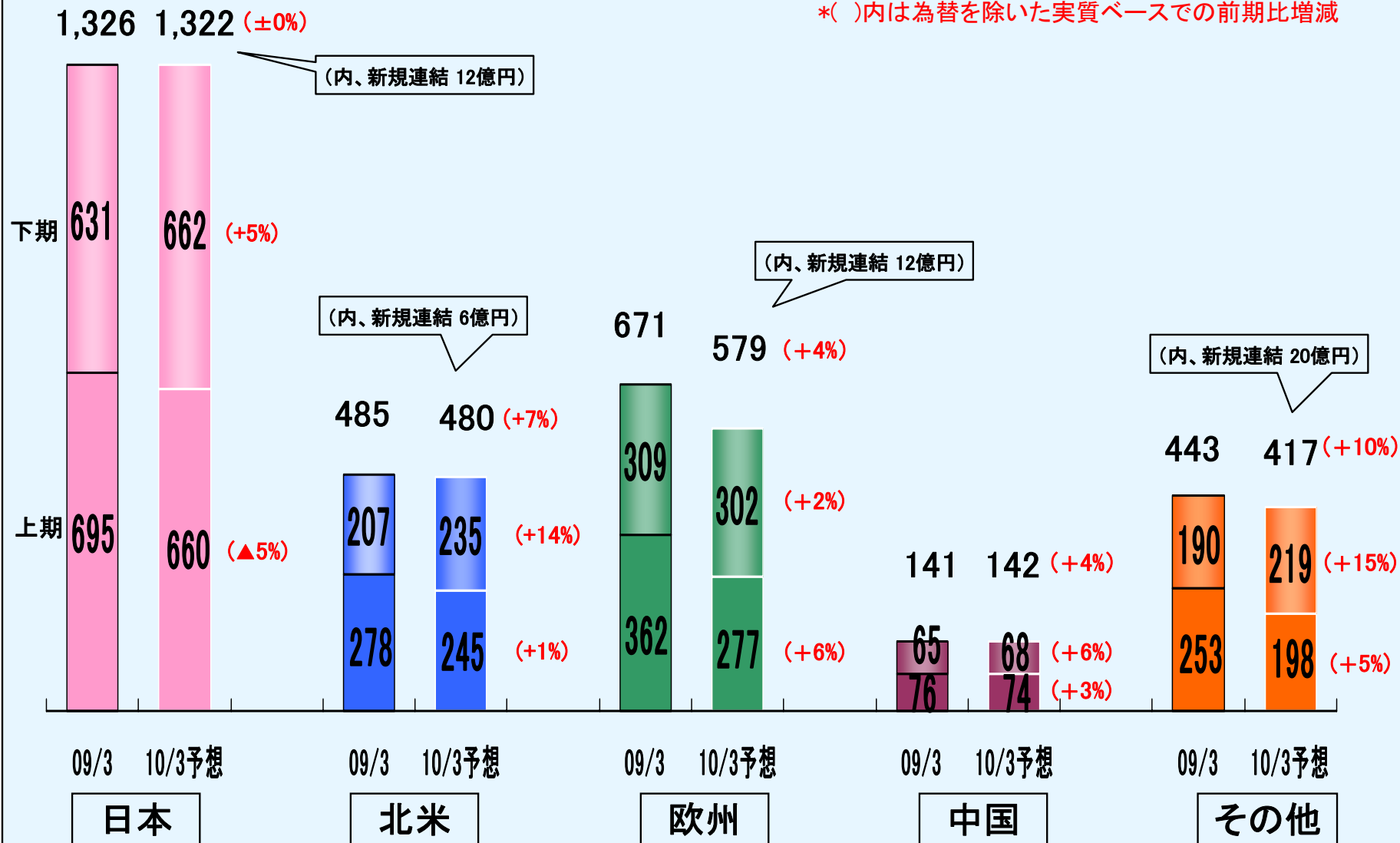


楽器事業(地域別の販売予想)



(億円)

* ()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

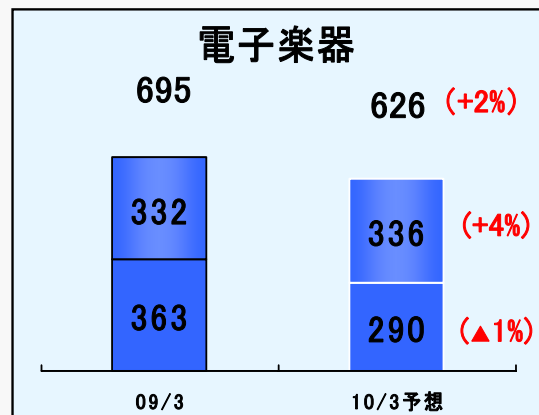
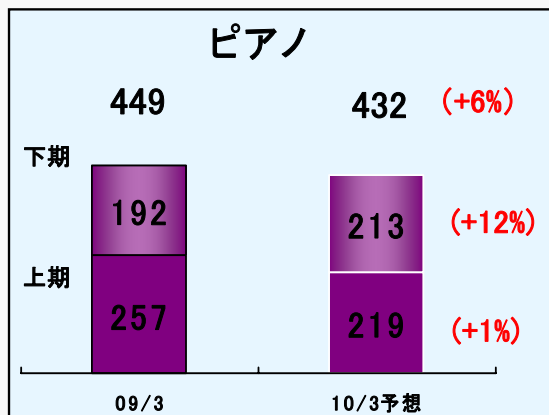


楽器製品売上高の商品群別販売予想

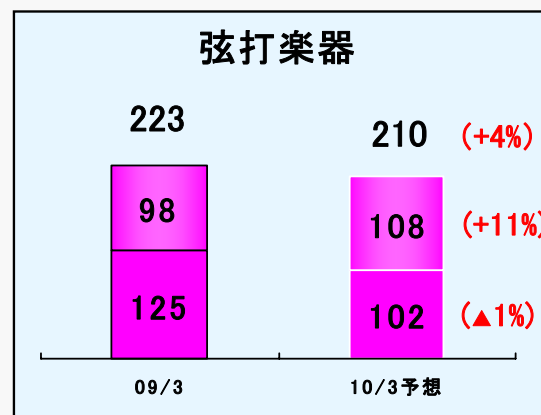
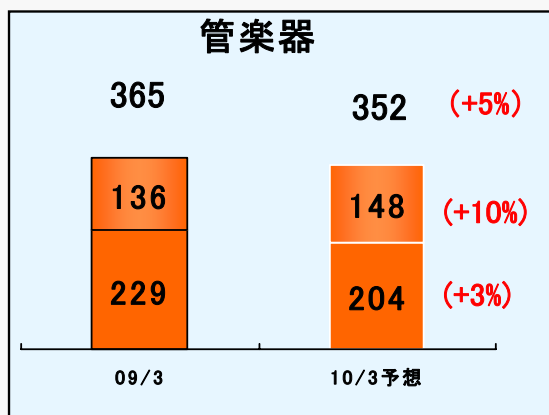
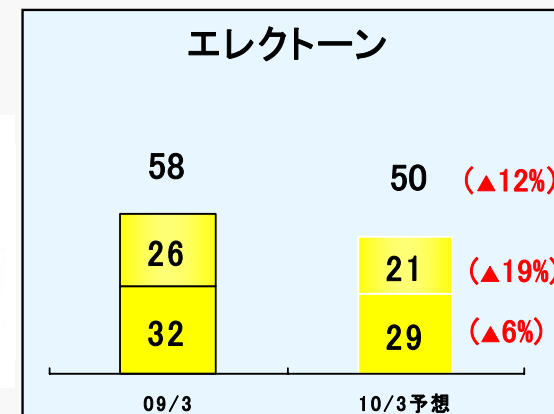
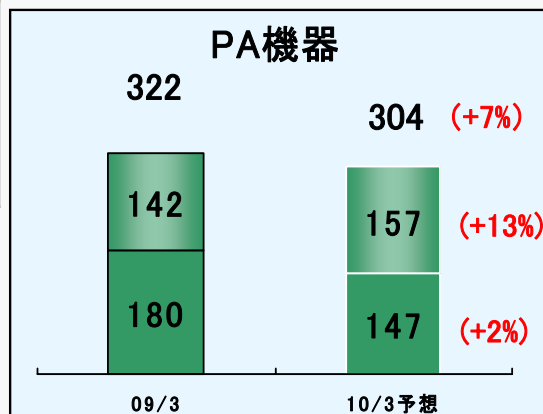


(億円)

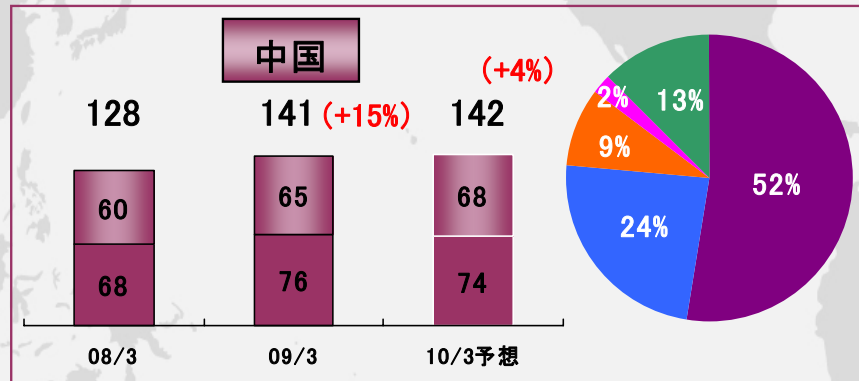
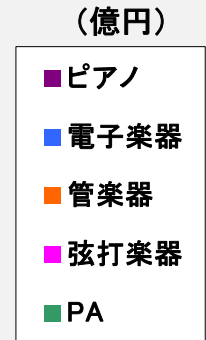
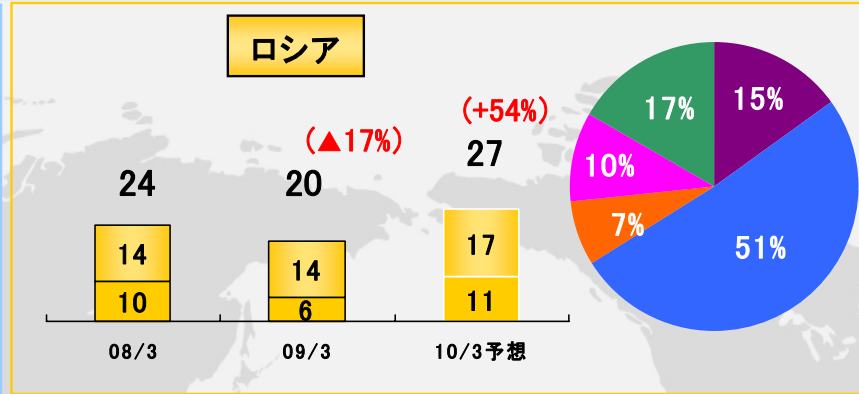
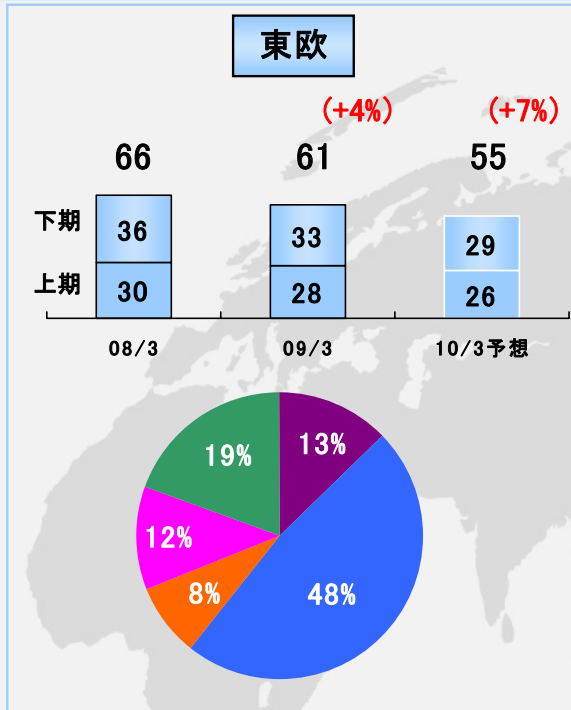
*()内は為替を除いた
実質ベースでの前期比増減



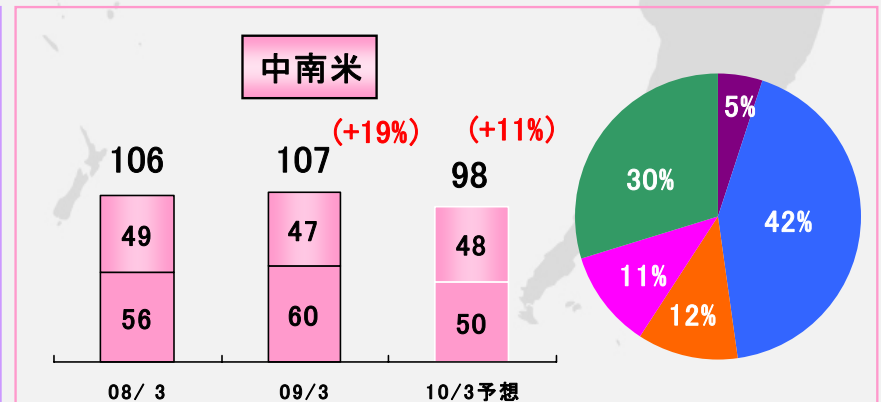
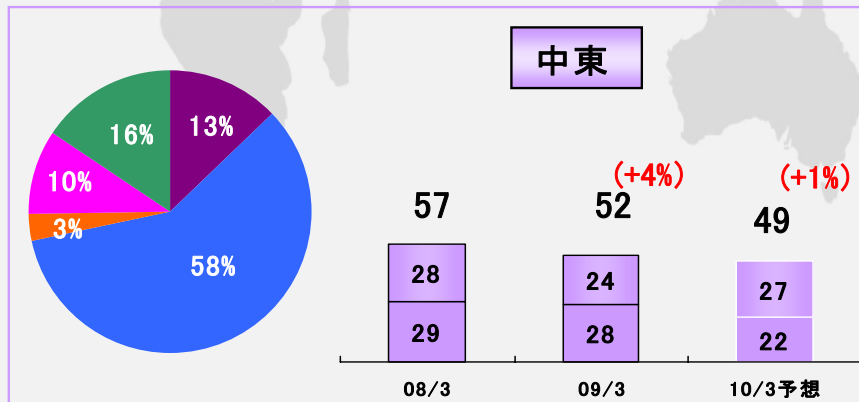
ピアノ売上台数	09/3	10/3予想
国内	16,600台	15,100台
海外	77,600台	74,200台
合計	94,200台	89,300台



新興市場の販売状況



*()内は為替を除いた
実質ベースでの前期比増減

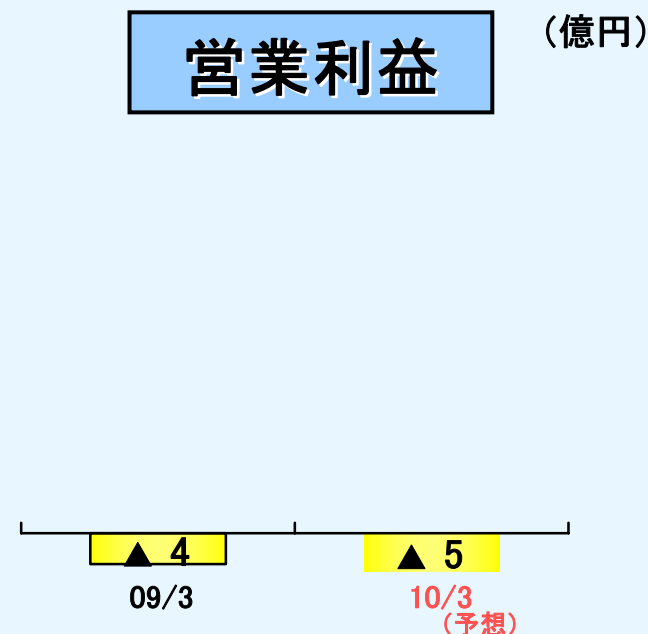
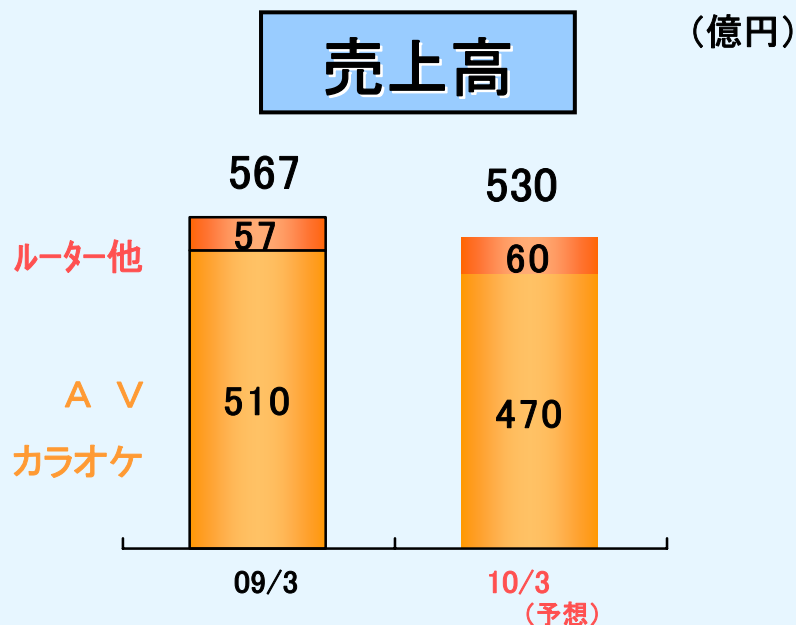


■市場環境

- ・フラットテレビ市場の成長鈍化
- ・テレビ周辺機器市場の競争激化(ラック一体型オーディオ、AVリンク)
- ・iPod普及に伴うデスクトップオーディオ市場の成長
- ・国内のSOHOルーター市場は縮小継続

■重点施策

- ・市場変化に合わせたAVビジネスの構築
 - 中高級AVレシーバー拡販
 - フロントサラウンド商品拡販
 - ラインアップ充実による2chHiFiビジネス強化
 - デスクトップオーディオ等新ジャンル商品の開発と市場導入
 - 部品内製化促進と材料コストダウンによる製造原価の低減
- ・ルーターは商品優位性の訴求によるシェア拡大
- ・会議システムは、販売先を中国、日本市場に特化。欧米は体制縮小



■市場環境

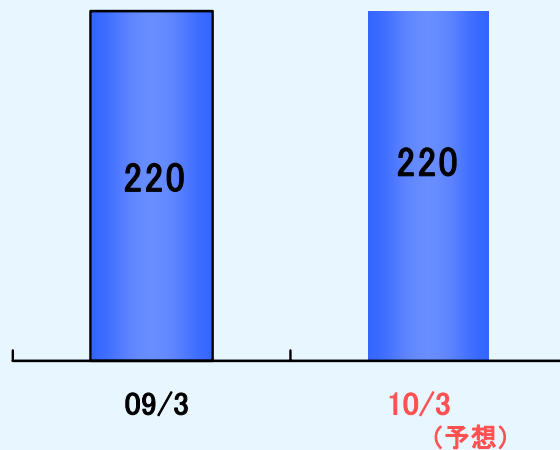
- ・国内携帯電話販売の減少
- ・アミューズメントLSIは音源、画像とも需要縮小
- ・フラットテレビは需要減少と低価格化進行

■重点施策

- ・固定費削減による収益力強化
- ・付加価値提供による携帯電話用音源LSIビジネスの維持
- ・デジタルアンプ拡販とアミューズメント音源、画像LSIの維持拡大

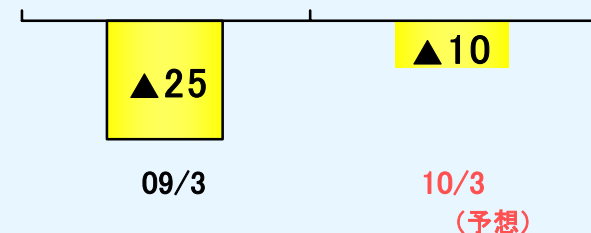
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



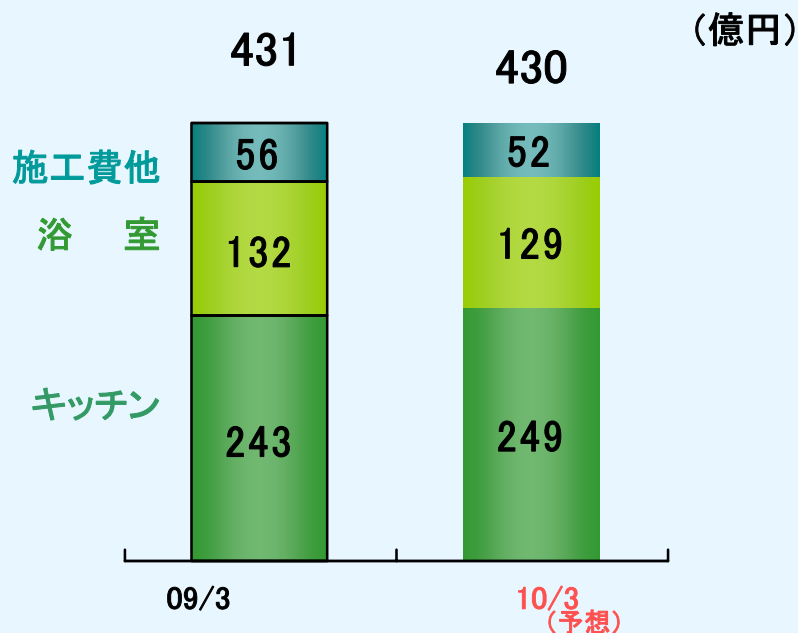
■市場環境

- ・新築住宅着工数は一段の減少が見込まれる
- ・こうした中で、業界はリフォーム事業にシフトし、競争激化
- ・住宅の安全性、高品質、環境対応ニーズの高まり
- ・業界再編進行

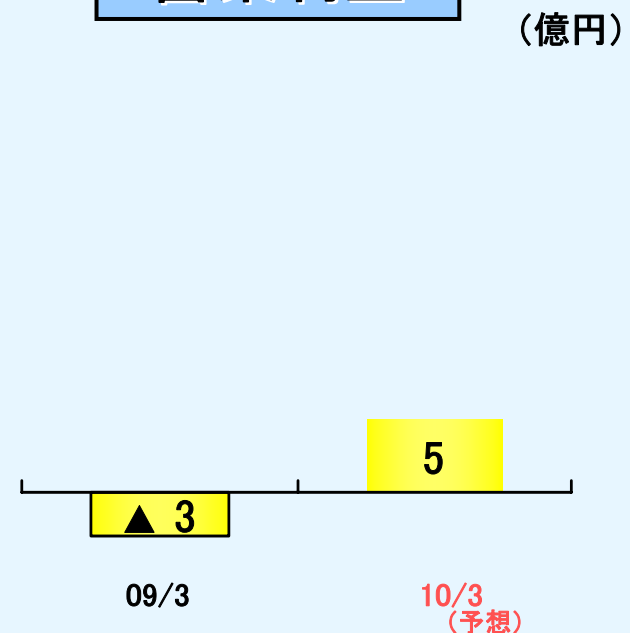
■重点施策

- ・リフォームビジネス強化(リフォームに強い販路の開拓、リフォーム用部材販売)
- ・経費削減、材料コストダウン、生産性向上による製造原価の低減

売上高



営業利益



その他の事業

■市場環境

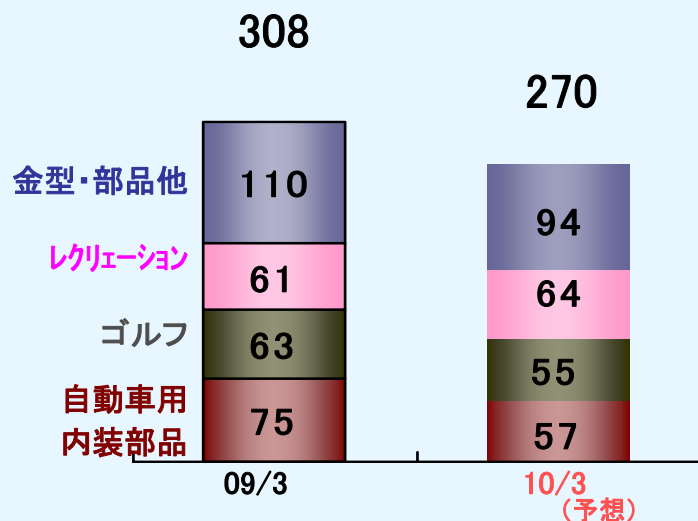
- ・自動車販売の不振に伴う部品需要の減少
- ・FAは企業の設備投資減退で受注減少
- ・ゴルフ、レクリエーションとも景気減速影響で市場縮小

■重点施策

- ・自動車用内装部品は損益分岐点の引き下げによる収益性の改善
- ・ゴルフは競争力ある新製品開発によるシェア拡大
- ・レクリエーション事業は施設の魅力を活かした商品企画の提案と固定費削減による黒字化が目標
- ・マグネシウム部品事業のスムーズな生産終了

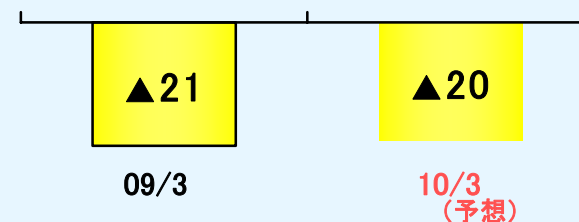
売上高

(億円)

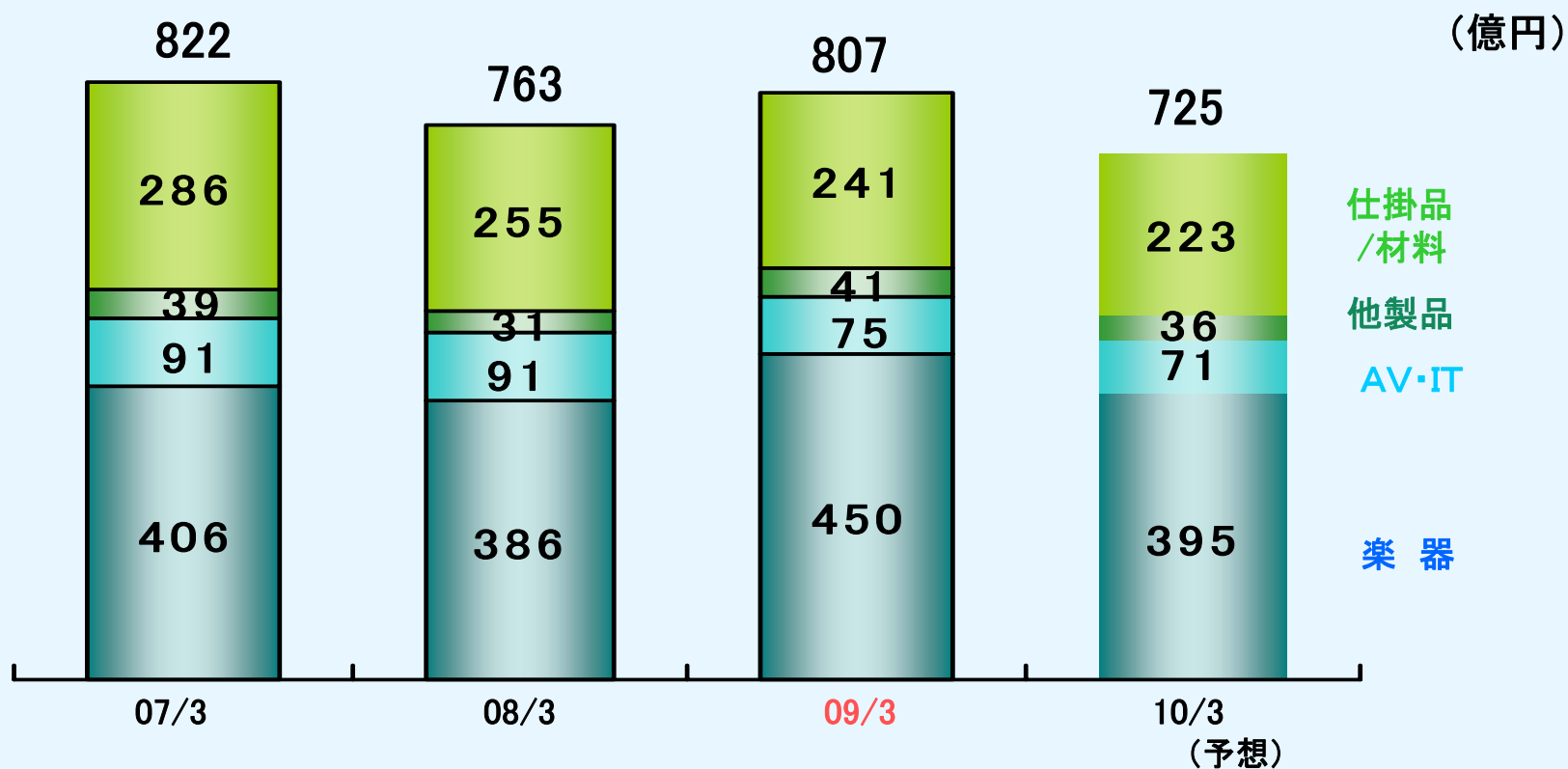


営業利益

(億円)



棚卸資産



➤09/3末総在庫は対前期44億円の増加。

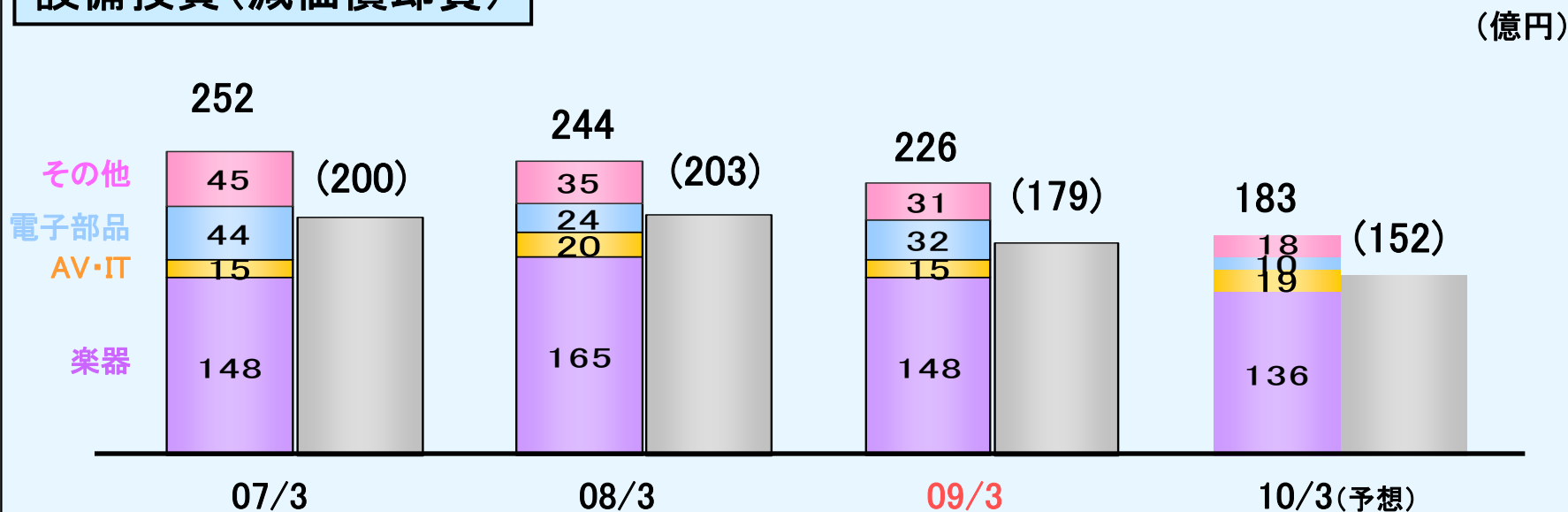
(為替影響を考慮すれば実質105億円の増加)

➤前回予想に対しては、為替影響を除けば実質14億円の増加

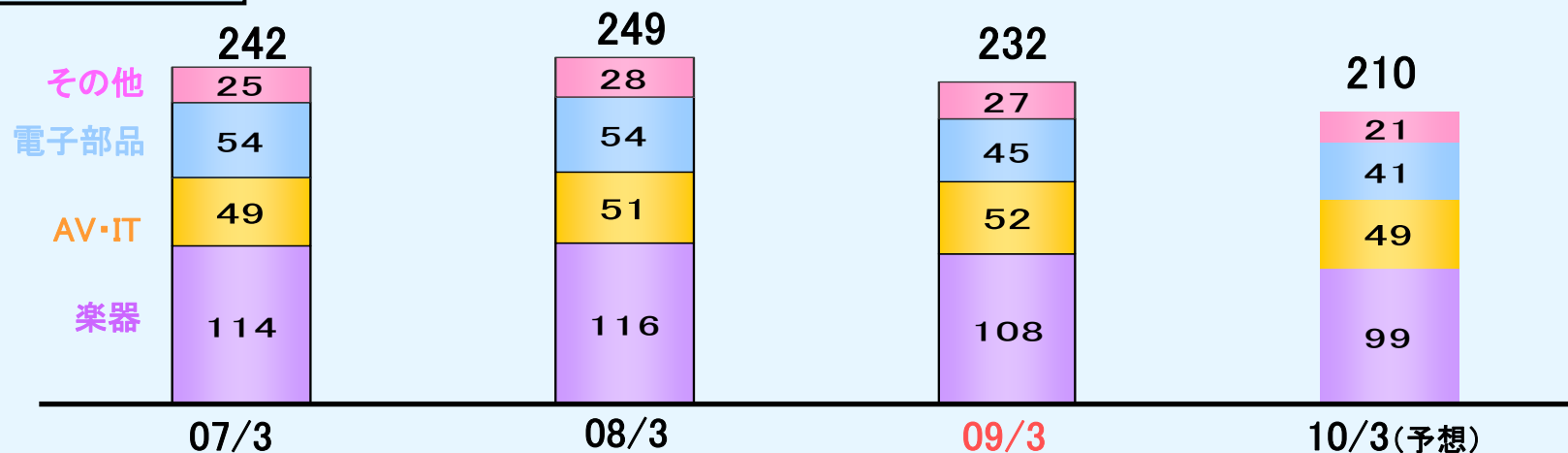
設備投資・減価償却費/研究開発費



設備投資(減価償却費)



研究開発費



予想貸借対照表



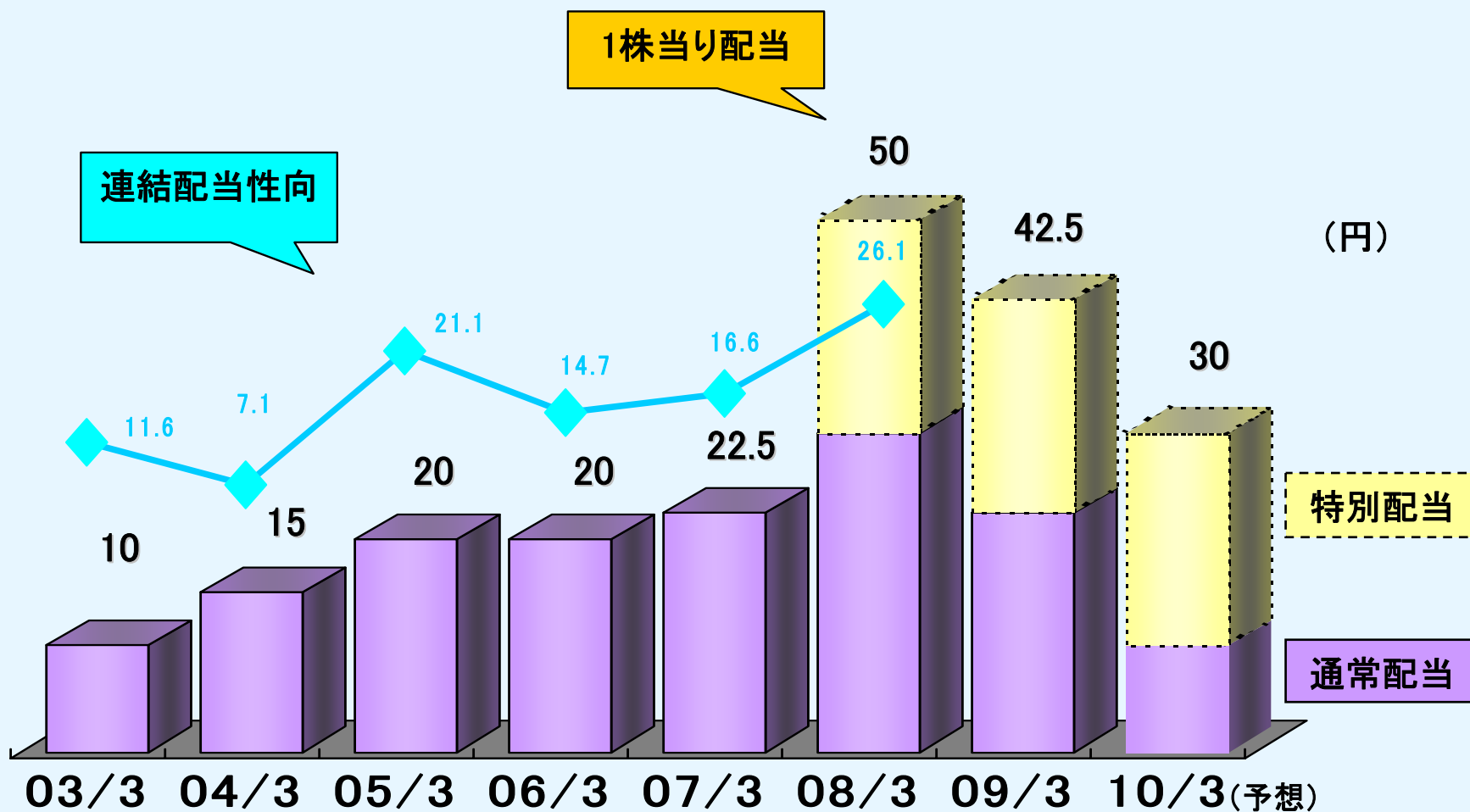
(億円)

	2007/3末	2008/3末	2009/3末	2010/3末予想
現預金	467	1,040	414	388
売上債権	766	651	505	660
棚卸資産	822	763	807	725
他流動資産	255	303	295	262
固定資産	3,280	2,646	2,069	2,116
資産計	5,590	5,403	4,090	4,151
仕入債務	432	350	256	336
借入金	256	210	192	169
リゾート預託金	267	170	167	167
他負債	1,121	1,243	957	1,056
純資産計	3,514	3,430	2,518	2,423
負債純資産計	5,590	5,403	4,090	4,151

※現預金残高には譲渡性預金を含む

株主還元

➤2010/3期年間配当は、30円の予定(通常配当10円、特別配当20円)



付属資料

2009/3期 4Q業績



▶4Qは対前回予想減収増益

(億円)

	08/3 (4Q) 実績	09/3 (4Q) 実績	前年 同期比	前回予想 (09/3/19)	前回予想比
売上高	1,199	899	▲25.0%	956	▲6.0%
営業利益	▲27	▲84	—	▲107	—
経常利益	▲27	▲90	—	▲115	—
当期利益	▲26	▲300	—	▲324	—

為替レート

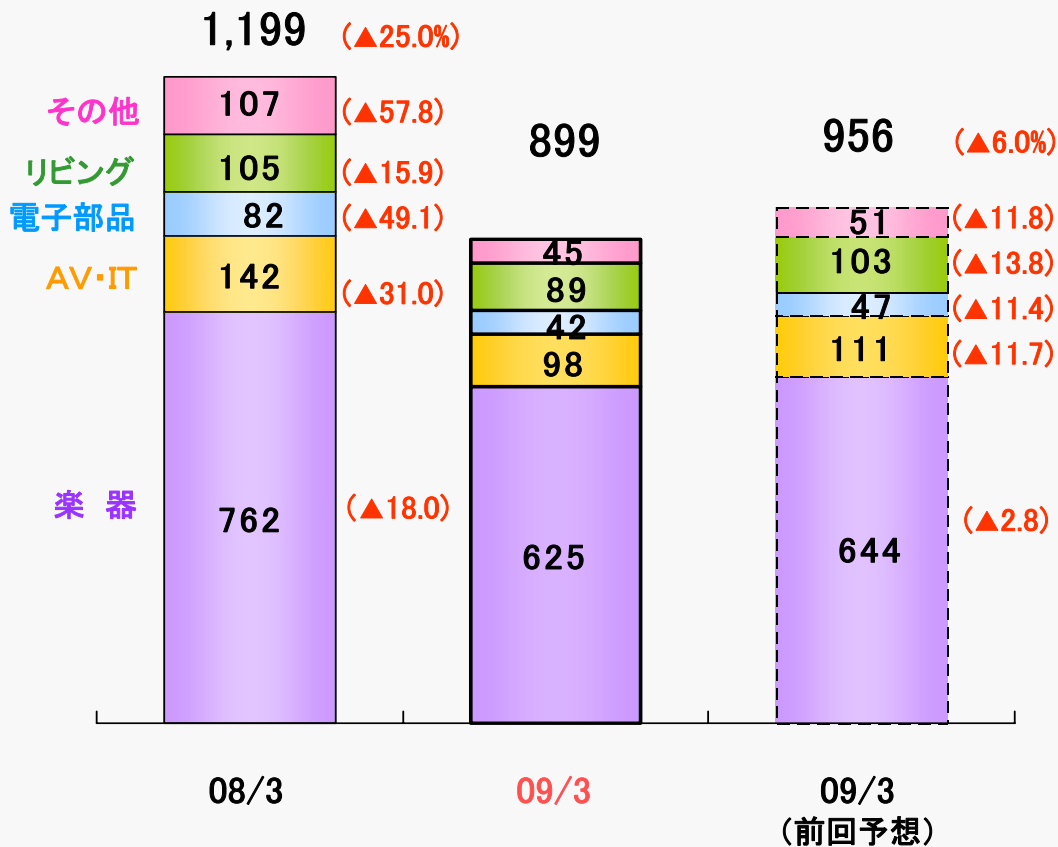
(円)

売上高	US\$	105	94	95
	EUR	158	122	120
利益	US\$	108	93	95
	EUR	159	128	129

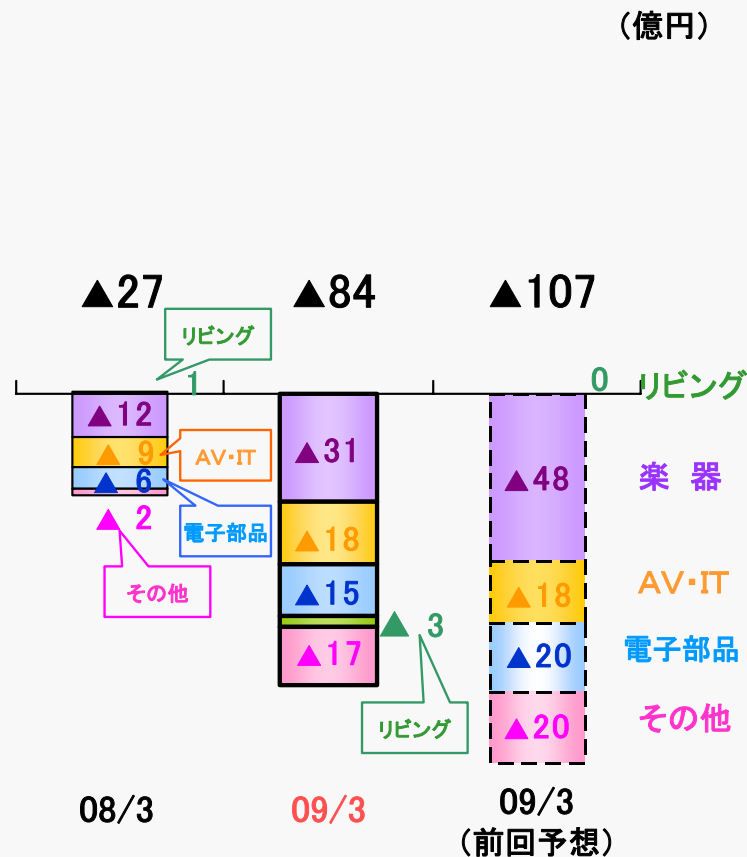
2009/3期 4Q事業別業績



売上高



営業利益



()内は前年同期比
または
前回予想比

前年同期との比較での為替影響は▲112億円
(楽器▲90億円、AV・IT▲22億円)
また、前回予想との比較では▲2億円
(楽器▲1億円)

前年同期との比較での為替影響は▲50億円
(楽器▲41億円、AV・IT▲9億円)
また、前回予想との比較では▲5億円
(楽器▲4億円)

通期営業外損益、特別損益



08/3実績

09/3実績

10/3予想

営業外損益

	08/3実績	09/3実績	10/3予想
			(億円)
金融収支	29	20	0
その他	▲31	▲38	▲30
計	▲2	▲18	▲30

・ヤマハ発動機配当金 17

・ヤマハ発動機配当金 11

特別損益

	08/3実績	09/3実績	10/3予想
固定資産処分損益	8	▲7	▲5
その他	291	▲235	▲5
計	+299	▲242	▲10

・ヤマハ発動機株式売却益 278

・特別退職金 ▲8

・減損損失 ▲153

・構造改革費用 ▲49

・関係会社出資金評価損 ▲33

法人税他

	08/3実績	09/3実績	10/3予想
法人税等	175	38	24
法人税等調整額	47	49	▲4
少数株主利益	7	▲3	0
計	229	84	20

国内市場楽器売上高

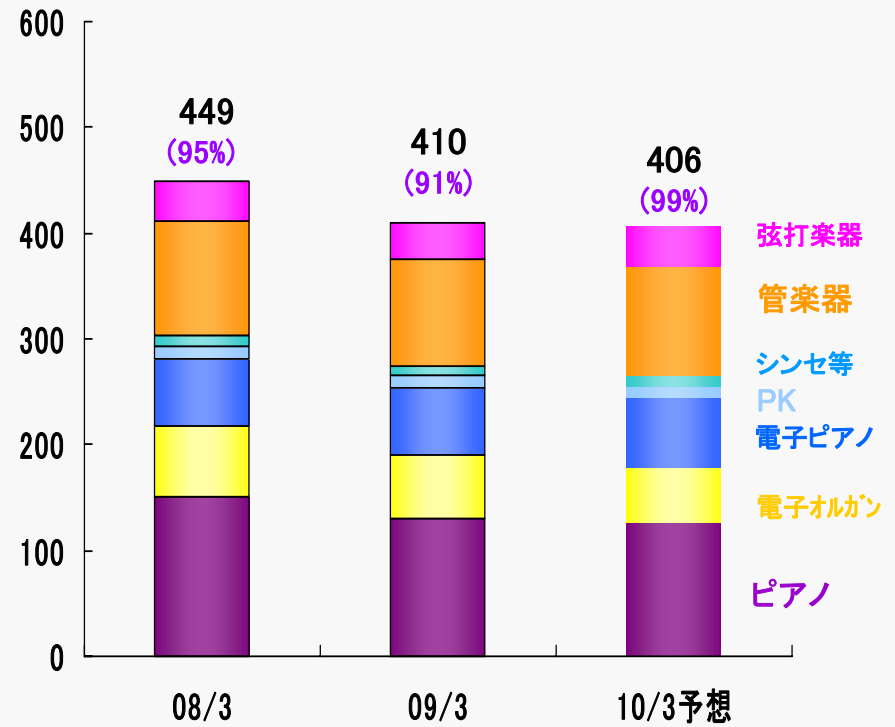
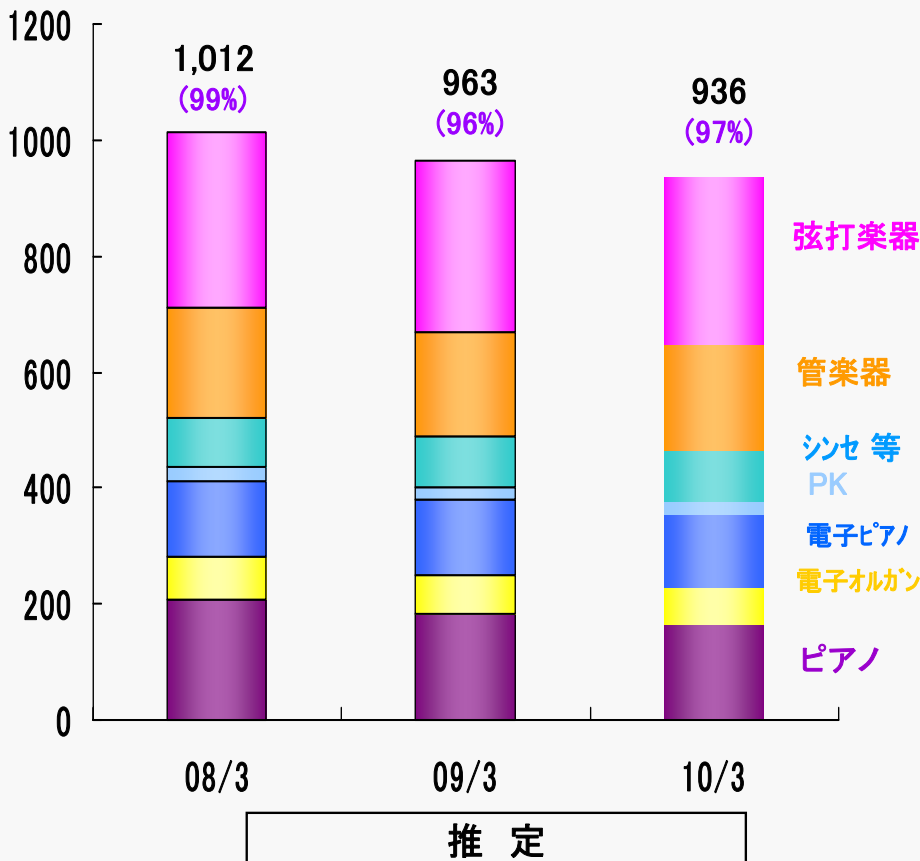


国内市場楽器卸売上高

()内は前期比

ヤマハ卸売上高

(億円)

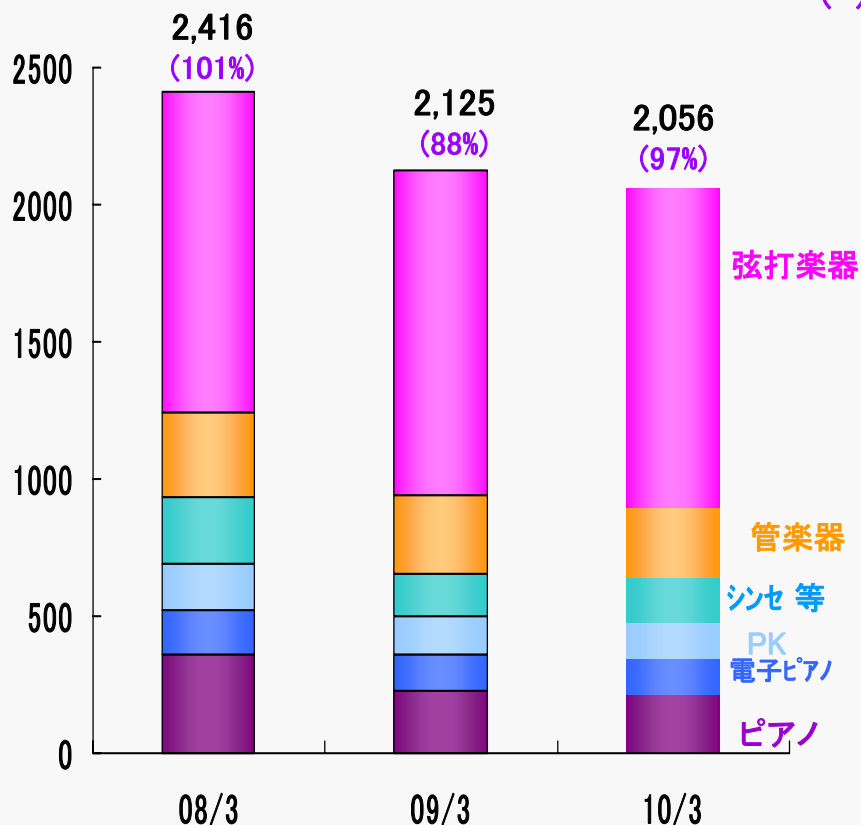


北米市場楽器売上高



北米市場楽器卸売上高

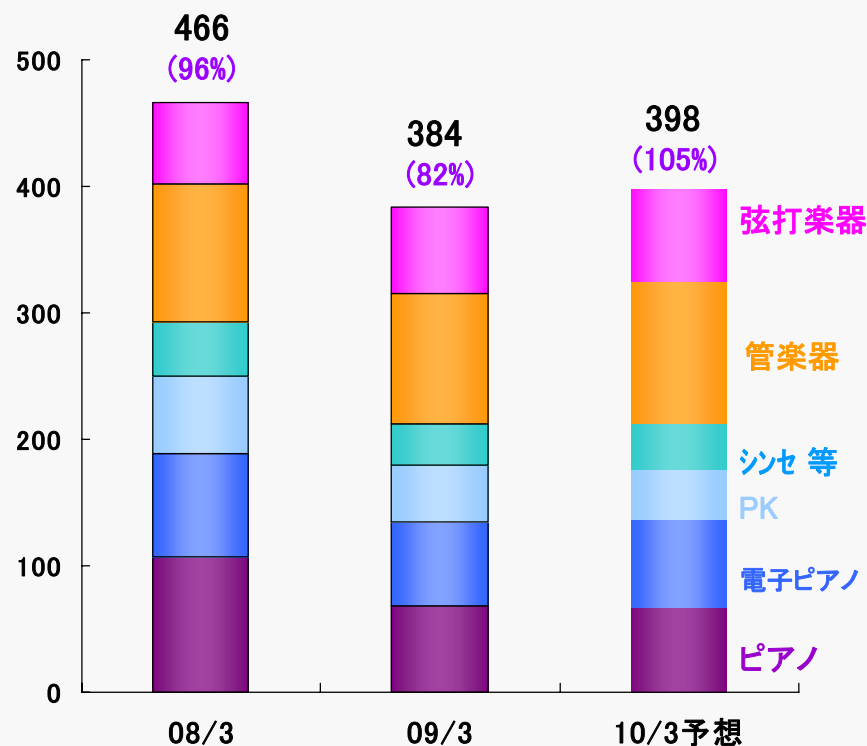
()内は前期比



推定

ヤマハ卸売上高

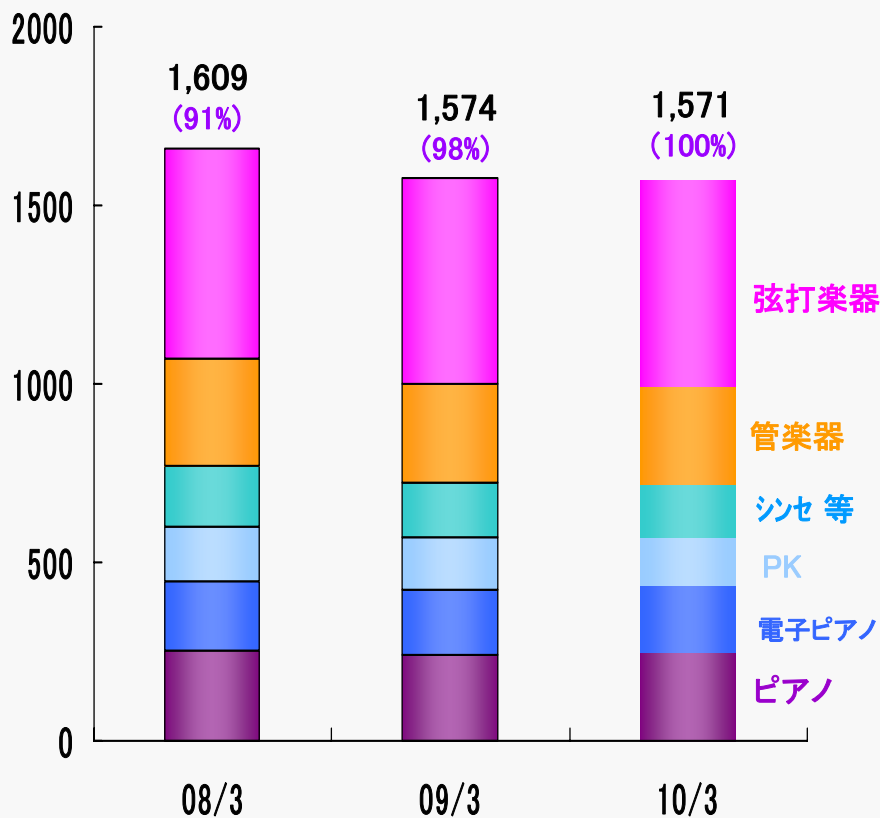
(百万US\$)



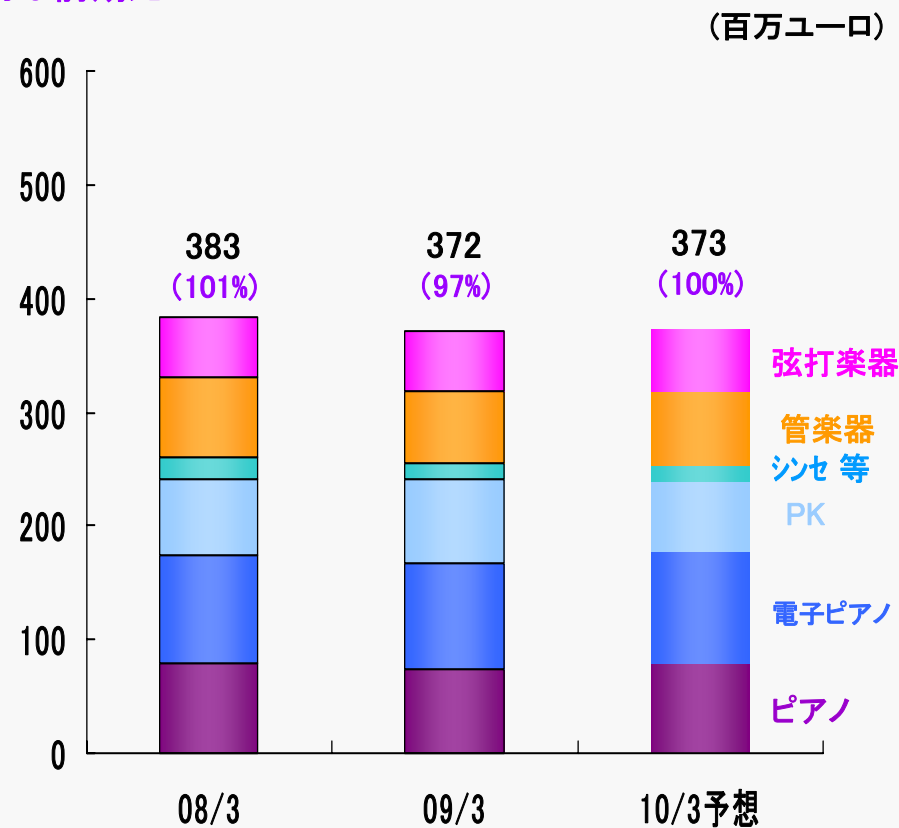
欧州市場楽器売上高



欧州楽器市場卸売上高



ヤマハ卸売上高

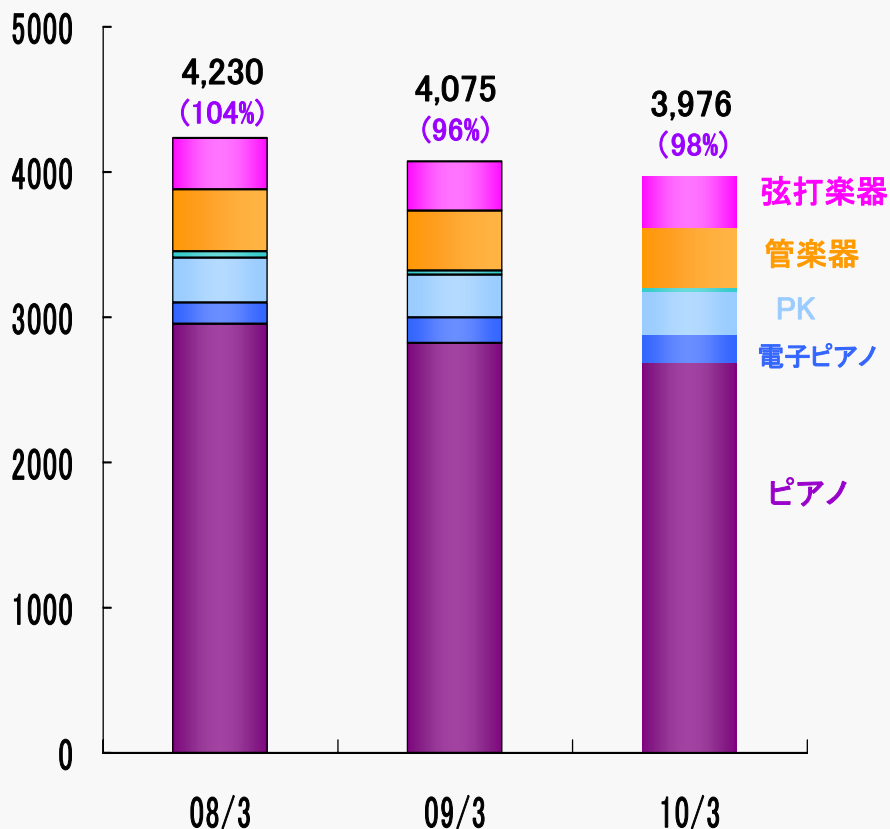


中国市場楽器売上高



中国市場楽器卸売上高

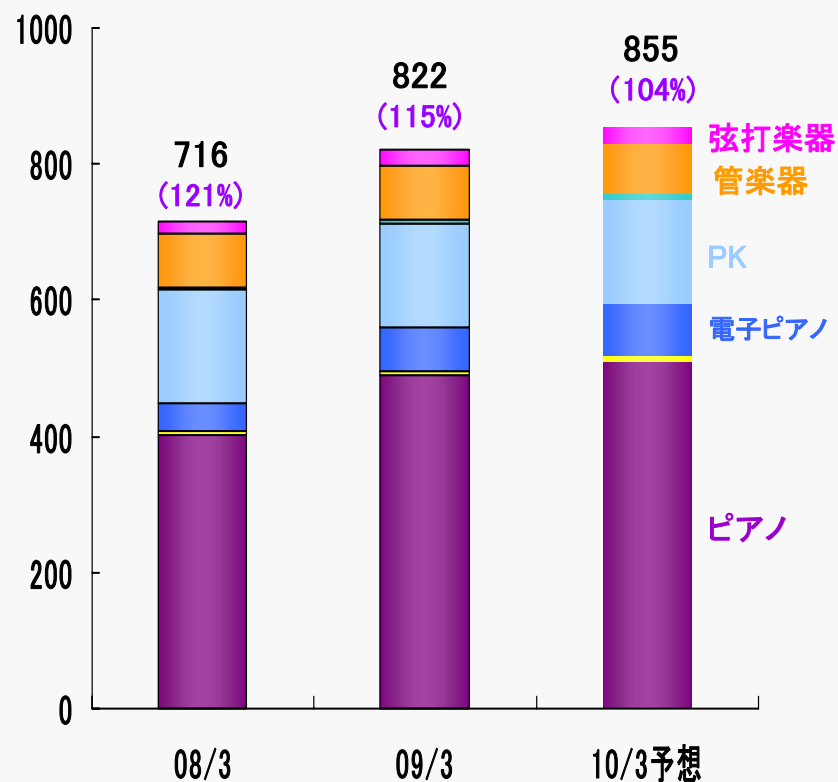
()内は前期比



推定

ヤマハ卸売上高

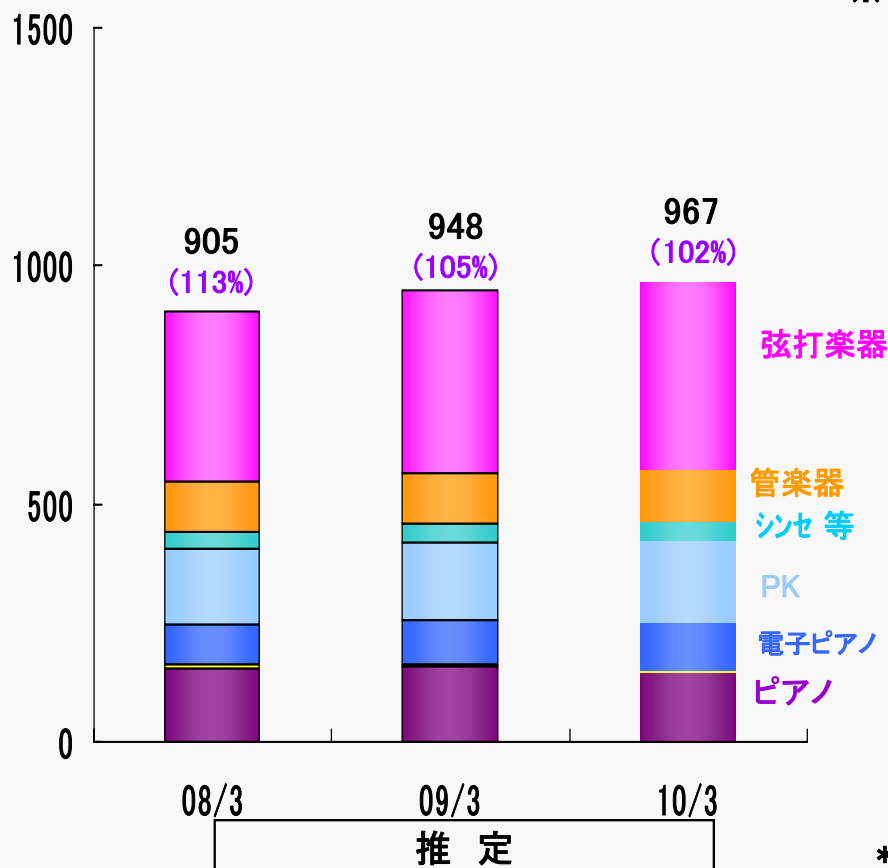
(百万人民元)



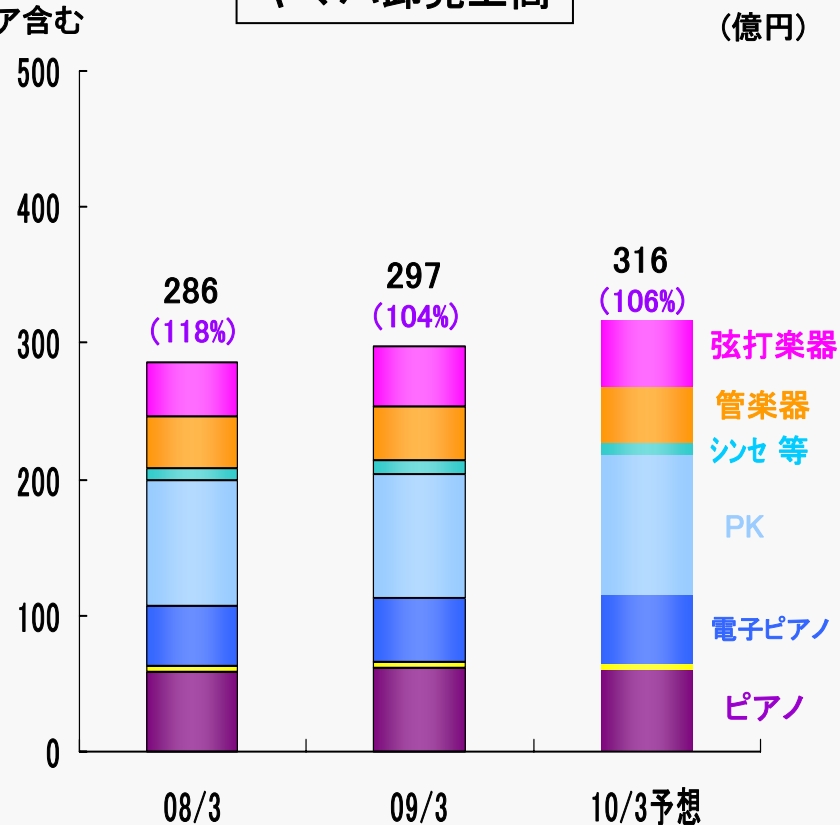
その他地域楽器売上高



その他地域楽器卸売上高

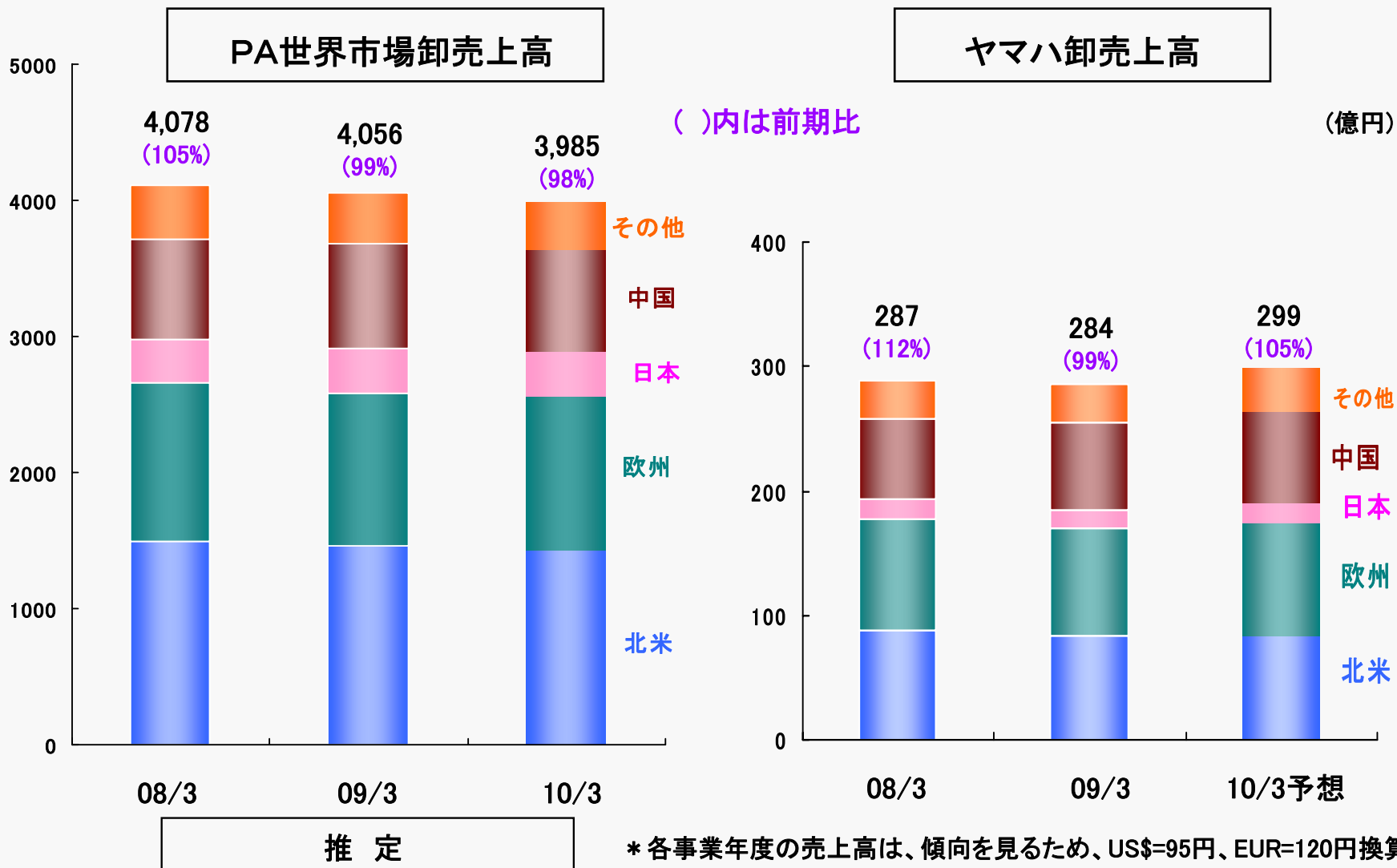


ヤマハ卸売上高

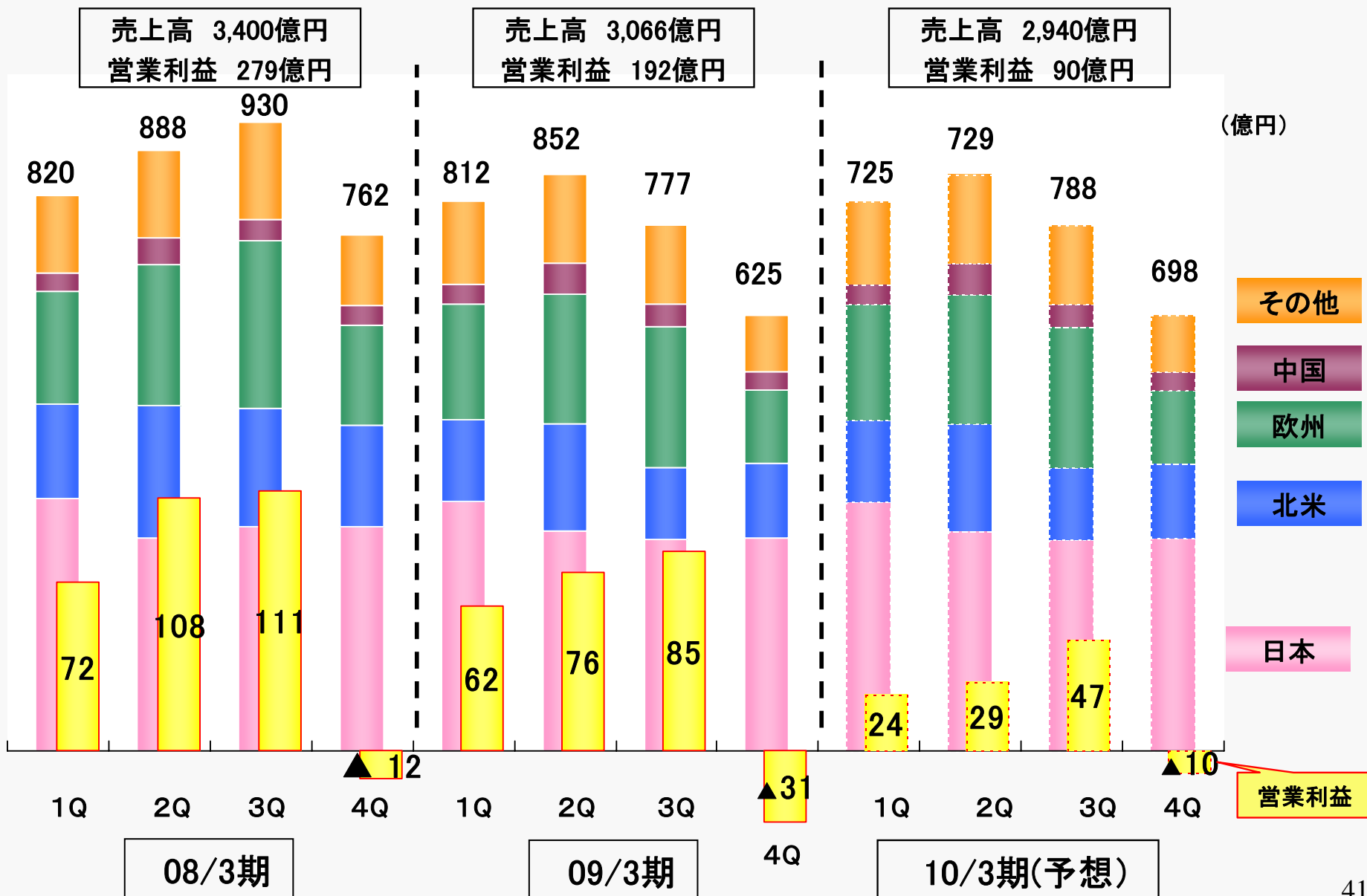


* 各事業年度の売上高は、傾向を見るため、US\$=95円換算値

全世界PA機器売上高



楽器四半期別売上高／営業利益



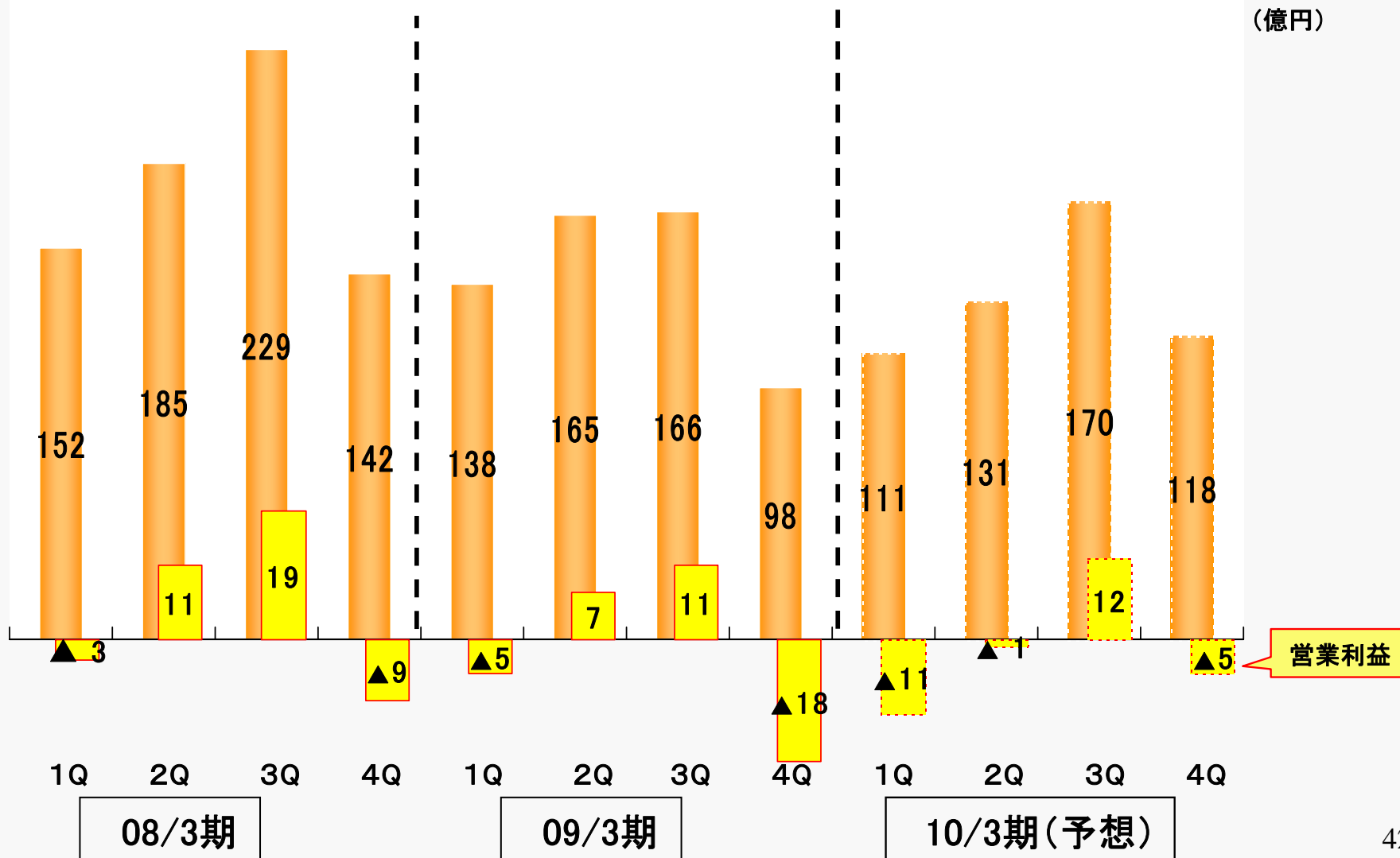
AV/IT四半期別売上高／営業利益



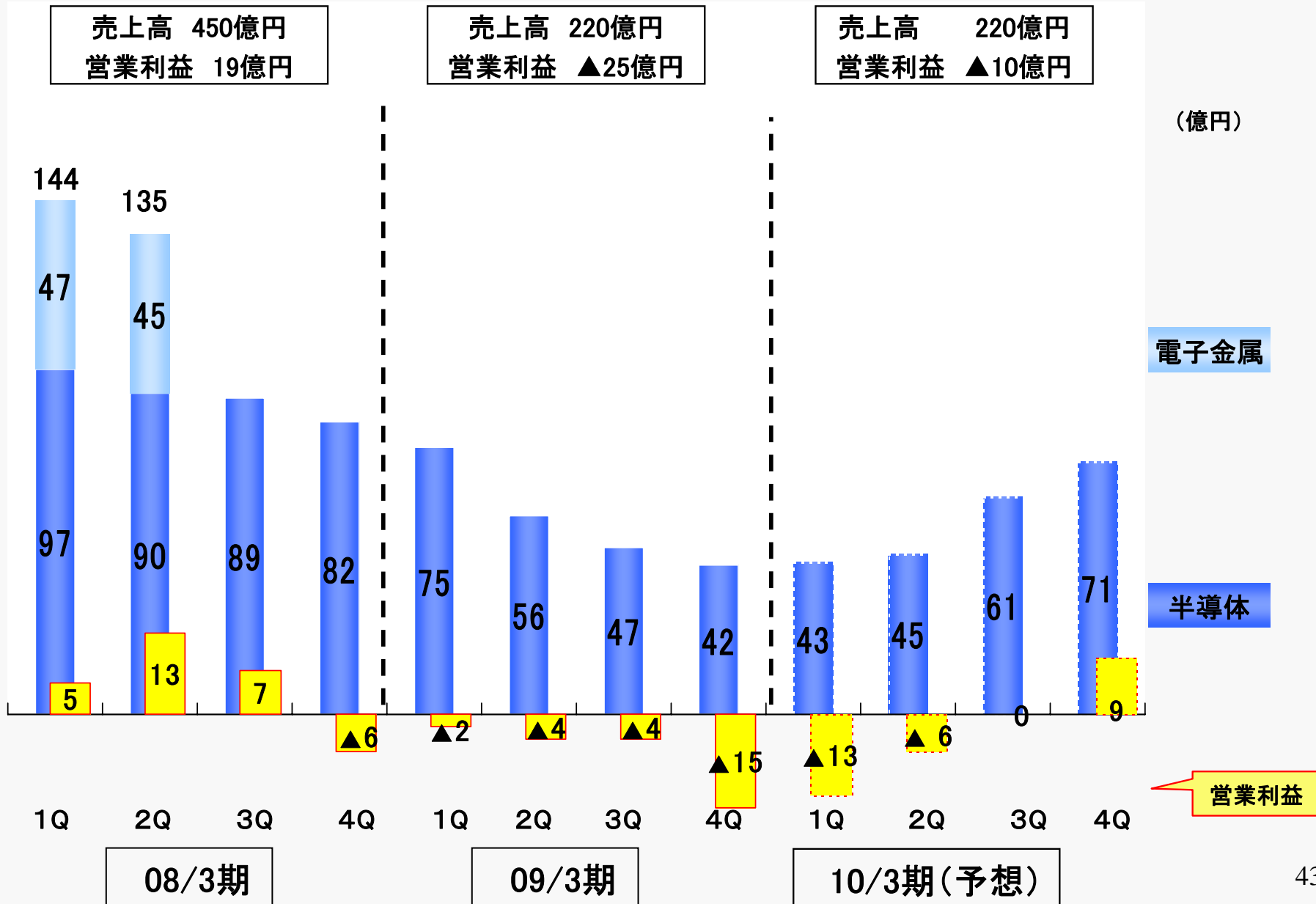
売上高 708億円
営業利益 18億円

売上高 567億円
営業利益 ▲4億円

売上高 530億円
営業利益 ▲5億円



電子部品四半期別売上高／営業利益



リビング四半期別売上高／営業利益

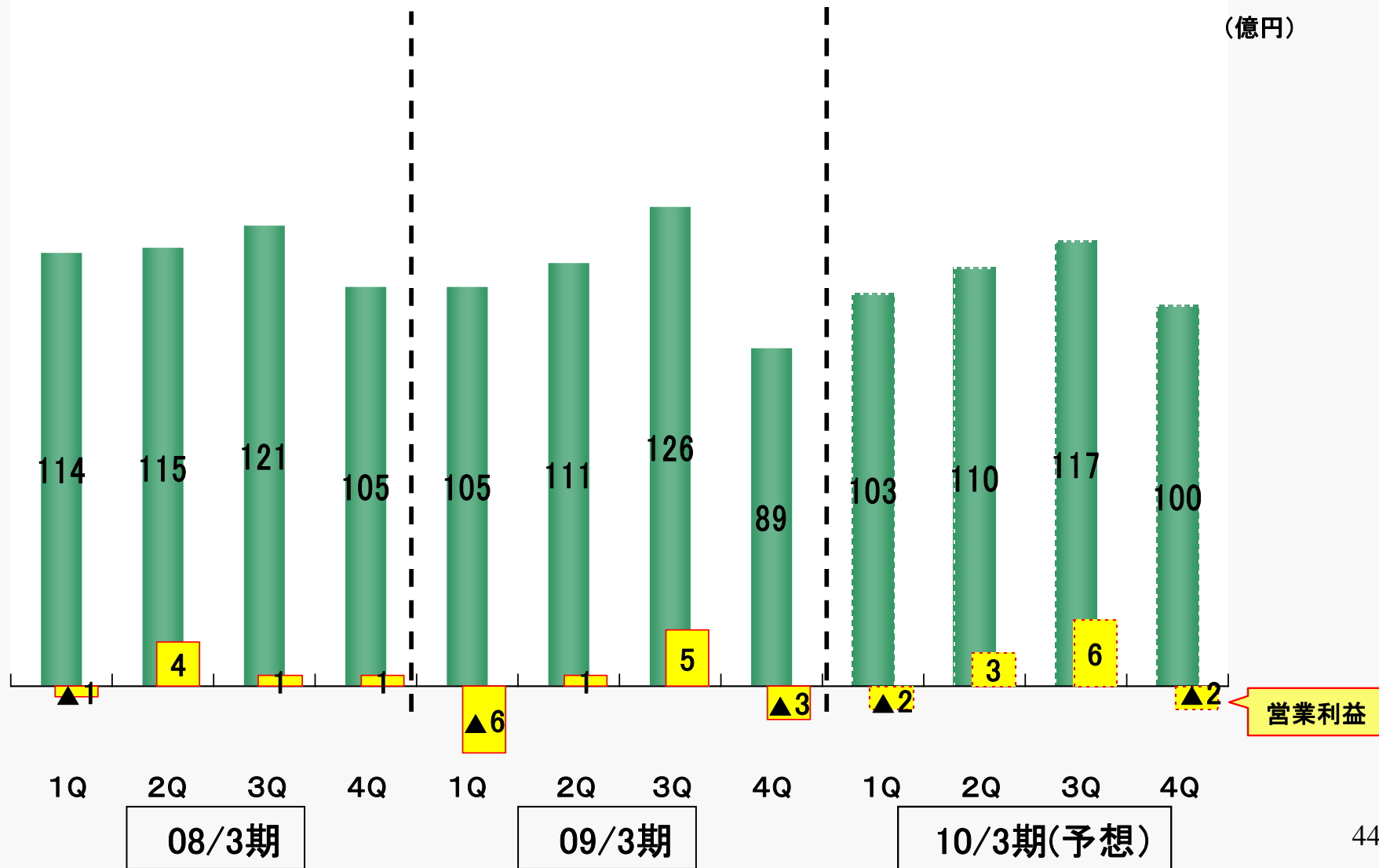


売上高 455億円
営業利益 6億円

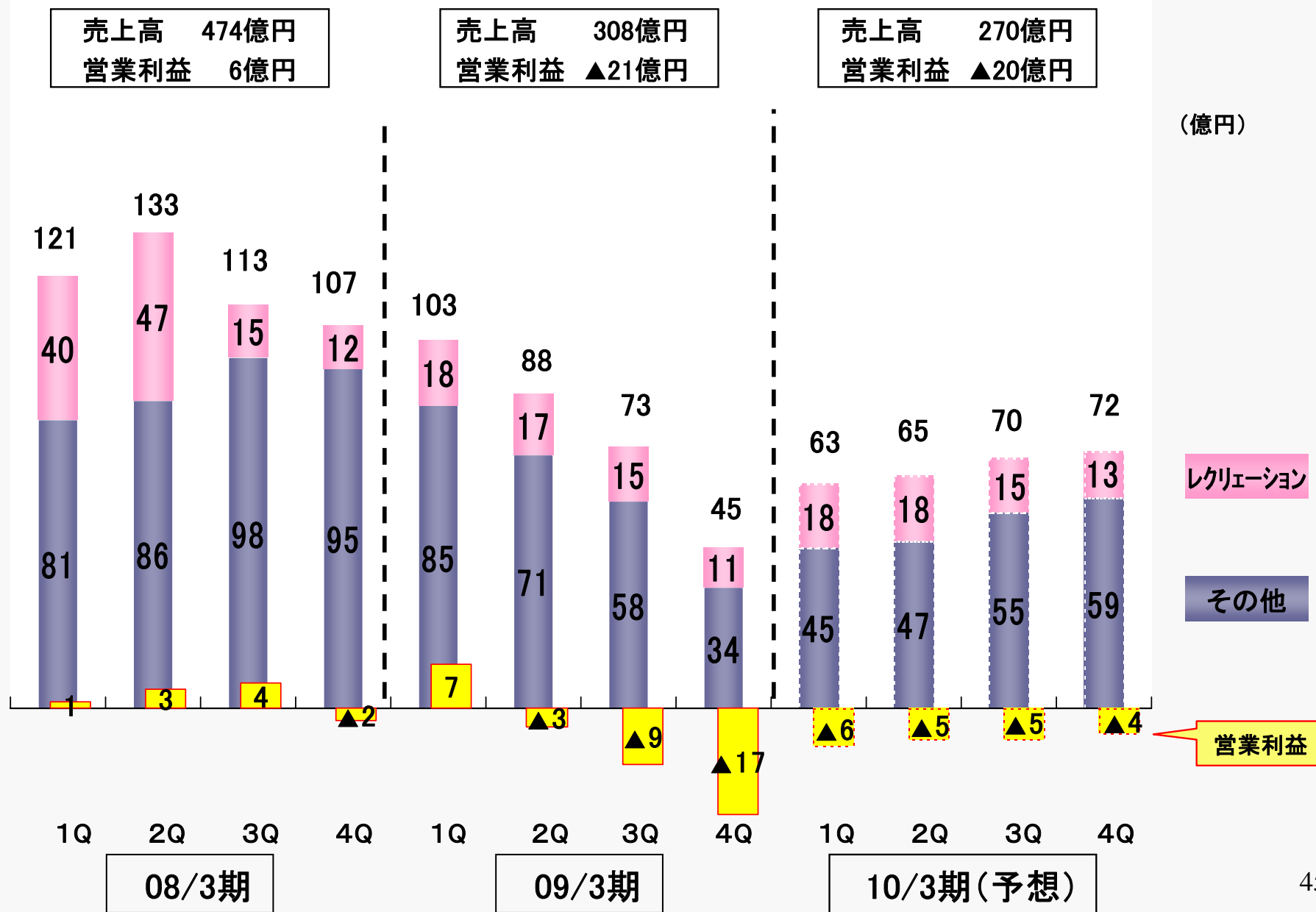
売上高 431億円
営業利益 ▲3億円

売上高 430億円
営業利益 5億円

(億円)



その他四半期別売上高／営業利益



この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。